

私の事はあたりまえに自分で決めたい。 手伝ってね！！ Ver. 7

障がい者福祉施設・事業所における
障がいある利用者への意思決定支援事例集



(イラスト:社会福祉法人育成会 みなみテラス 薄井あずさ)

(2022年)令和4年3月

福島県知的障害者福祉協会

人権・倫理委員会

も く じ

あいさつ	福島県知的障害者福祉協会 会長 渡部 良喜	P 1
はじめに	人権・倫理委員会 委員長 品川 寿仁	P 2
実例調査の概要		P 4
実施された「障がいある利用者への意思決定支援実例」用紙		P 5
【意思決定支援実例の結果】			
カテゴリー分け要素説明		P 6
I 本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例 A			
① 居住系		P12
② 児童系		P28
③ 就労系		P32
④ 日中活動系		P37
II 本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例 B			
① 居住系		P50
② 児童系		P65
③ 就労系		P69
④ 日中活動系		P74
カテゴリー分類図			
成功実例カテゴリー分類図		P87
失敗実例カテゴリー分類図		P89
5年間のカテゴリー分類比較図		P91
人権・倫理委員による編集後記		P93

あ い さ つ

人が人として生きる権利をわが国では、日本国憲法の三原則の一つとして、第 11 条で、基本的人権の尊重を謳っております。障害が有る無しに関わらず全ての国民が権利として有している人権について、憲法が保障している中で、障がい者に対する権利侵害は未だに無くならない現状には障がい者福祉に携わる者として憤りを禁じ得ないところです。日本国憲法の基に障がい者に対する障害者基本法があり、その中で障がいを持っている方への合理的配慮や本人の意思を表出し尊重した内容のサポートを行うがための意思決定支援が行われなくてははいけないのです。当事者の人権を守る上では本人の意思を確認することが重要となり、本人の意思をくみ取る上で合理的配慮が必要となっております。人権を守る、権利を侵さないという事を常に念頭に置いて業務に遂行しなくてははいけないと思っております。

『この子らを世の光に』。戦前戦後と障害児(者)福祉に携わられた糸賀一雄氏の言葉です。「この子らはどんなに重い障害をもっていても、だれととりかえることもできない個性的な自己実現をしているものなのである。人間とうまれて、その人なりの人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。私たちのねがいは、重症な障害をもったこの子たちも、立派な生産者であるということを、認めあえる社会をつくろうということである。…この子らが、生まれながらにして持っている人格発達の権利を徹底的に保障せねばならぬということなのである。…そういうことが可能になるような制度や体制や技術をととのえなければならぬ。」糸賀一雄書「福祉の思想」より

この子らが、生まれながらにして持っている人格発達の権利を徹底的に保障せねばならぬということなのである。…そういうことが可能になるような制度や体制や技術をととのえなければならぬと言われている事こそが、権利侵害を生まないようにする職員一人一人の技術の向上ではないかと思えます。だからこそ従事する側の資質が問われているのです。誰にでも出来そうであるが誰にでも出来ない業務。そこに従事する方にはそれだけのプライドを持って業務に遂行していただきたいと思えます。誰にでも出来ないと思われる仕事をそれでも選んで頂いたからには、誰にでも出来るようにしなくてはならないと思えます。

本実例集は、福島県知的障害者福祉協会が取り組みを開始して7年目を迎え、職員の質の向上を目的に作成しました。成功事例もあれば上手くいかなかった事例もあります。全ての事業所において日々奮闘して業務に携わる職員一人一人が、支援する際のバイブルとして活用し参考として頂ければ幸いです。

福島県知的障害者福祉協会
会 長 渡部 良喜

はじめに

「意思決定支援実例集～私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね！！～Ver.7」が今年も完成いたしました。新型コロナ感染症感染対策に伴う新たな生活様式のなかで、WEBを活用したオンライン会議が当たり前になり、資料も紙ベースからデータ共有が多くなった印象があります。そうしたなかで、昨年度より本事例集はダウンロード版として福島県知的障害者福祉協会ホームページに掲載するのみとなりました。ペーパーレス化の推進にも繋がり、デジタル化への慣れも浸透しておりますので、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

また、実例集作成にあたり福島県内の施設・事業所職員の皆様から意思決定支援の実例が今回は181件のご提出がなされ、Ver.1から延べ1340件のデータとなりました。県内各事業所の皆さまのご協力に心から感謝申し上げます。

さて、コロナ禍における制約のなかで意思決定支援実例集を作成するには、難しい部分もありましたが、委員の皆さまのご協力により作成することができました。前年度の反省を活かし、少しでも事例の議論・検証が深まるよう各委員の事業所にも協力いただきました。その中で、やはり多くの事例に触れ、意思決定支援について議論する機会が何よりも支援員の研鑽に繋がり、その議論の積み重ねがより良い意思決定支援として利用者さんに還元されることが、本実例集の狙いです。また、利用者さん一人ひとりの意思に寄り添い、心に寄り添い、笑顔のために、自分たちがやるべきことをチームに浸透させていくことで、利用者さんが良い一日だったと感じていただけたのなら、それが支援者としてのやりがいの一つではないでしょうか。

どうか各事業所にて本事例集を片手にスタッフ間で意思決定支援について議論して頂き、多くの事例に触れ、真の意思決定支援の糧になれば幸いです。

福島県知的障害者福祉協会
人権・倫理委員会
委員長 品川 寿仁

福島県知的障害者福祉協会 人権擁護委員会設置に関するアンケート

福島県内会員施設における人権擁護委員会設置箇所数 推移表

	H21年11月	H22年4月	H23年4月	H24年4月	H25年4月	H26年4月	H27年4月	H28年4月	H29年4月	H30年4月	H31年4月	R元年12月	R3年3月	R3年12月
設置済み	22	23	21	36	48	61	72	72	80	84	94	98	101	109
年度内設置予定	1	8	6	2	16	4	4	4	5	0	1	1	1	2
次年度以降設置予定	35	25	17	17	17	20	19	21	18	21	12	10	7	3
設置困難	5	5	3	3	2	1	1	2	0	1	5	3	4	0
設置出来ない	3	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0
予定なし	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
無回答	20	26	39	30	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	88	88	87	89	88	87	96	100	104	107	112	113	114	114

【令和3年12月 調査時 現在 人権擁護委員会・虐待防止委員会等の各施設設置率 95.6%】

調査の概要

目的

県内の各施設の皆様にご協力を頂き「意思決定支援の実例集～私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね！！～」の発行は7年目となりました。これまで冊子として配布してきましたが今年度からは(ダウンロード版)として皆さまにお届けする運びとなりました。この実例集は、県内に留まらず各都道府県や厚労省及び関係機関からも参考にしたいとのご要望が多くありました。

「実践の中に真理あり」です。各施設の日常的な支援の実践や実例の中に、「意思決定支援」の様々な要素(カテゴリー)が凝縮されている事が、6年間の実例集で分析され可視化されました。

そこで、例年のとおり人権・倫理委員会では、「意思決定支援の実例」を各施設からご提供頂き、その類似性や特徴及び共通点を分析した実例集を作成いたしました。各事業所の職員一人ひとりが、日頃の支援を振り返り、実例の作成や実例をスタッフ間で協議することにより、今まで気づかなかった「発見」や、「改善策(統一的支援等)」が見出され、それにより、日常的に意思決定支援の実践が成される人的・物理的環境がととのいます。この一連の意思決定支援のプロセスこそが虐待を未然に防ぐ支援、並びに本人主体の積極的な人権擁護につながる良い機会になることを期待します。

1 調査対象

福島県知的障害者福祉協会加盟事業所におけるサービス管理責任者等

2 調査方法 福島県知的障害者福祉協会 事務局よりメールにて依頼

3 依頼期間

令和3年10月18日(月)～11月30日(火)

4 依頼件数

114事業所(昨年度113事業所)

5 回答件数

57事業所(昨年度63事業所)	成功実例 91件	(昨年比 -5件)
	失敗実例 90件	(昨年比 +1件)
	合計 181件	(昨年比 -4件)

6 回答率

H27年	H28	H29	H30	R1	R2	R3
37%	58%	54%	59%	56%	51%	50%

7 調査項目

- 1 本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例
- 2 本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例

令和3年10月18日

福島県知的障害者福祉協会
会員・準会員 各位

福島県知的障害者福祉協会
会長 渡部 良喜
(公印省略)
人権・倫理委員会
委員長 品川 寿仁

福島県内の全会員事業所における 「障がいある利用者への意思決定支援実例集 Ver.7」作成について(依頼)

初秋の候、会員の皆様はますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

福島県人権・倫理委員会は「福島県内の障害者施設利用者への虐待を未然に防止し、人権が擁護された支援の周知と拡充及び安心して支援できる事業所体制の向上を図ること」を目的とし発足して、10年目となりました。令和3年3月現在、当協会会員 114カ所中、101ヶ所に人権擁護委員会等が設置され、設置率 88.5%となっています。今後は、各事業所で設置された人権擁護委員会等が職員誰もが話やすく、討議しやすい環境にあるか、委員会の中身や質が問われます。各施設職員が障がいある利用者の方に対して、どんな時も「人権が護られた支援」を正々堂々と明るく、笑顔で出来るようにしたいものです。

さて、標記の件でございますが、平成 27 年度から県内の各施設の皆様にご協力を頂き「意思決定支援の実例集～私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね！！～」の冊子を発行させて頂いておりましたが、本年度につきましては冊子作成コストの都合上「本会ホームページへの掲載」となりました。

WEB 掲載ではありますが、引き続き「意思決定支援の実例」を各施設からご提供頂き、Ver.7として実例集を作成いたしますので、「意思決定支援実例」の報告用紙にご記入頂き、メールにて **11月30日まで**にご送信下さい。

事務局にて集計しホームページ掲載に向け準備を進めてまいりますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

(お問い合わせ先)

福島県人権・倫理委員会 事務局 (あさかあすなろ荘内)

担当 高杉 瀬戸 千葉

TEL 024-947-7575 mail:asunaro@aikuen.or.jp

本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例における 意思決定支援実例のカテゴリー分け要素

意思決定支援を行う上では様々な要素（以下カテゴリー）が見られ尚且つ、複雑に絡み合っております。そのような中、福島県人権・倫理委員会では実例集作成にあたり、意思決定支援をする上でのカテゴリーを、昨年の185件のデータに基づき、引き続き特徴ある10のカテゴリーに分け、分析を行いたいと考えております。

また、⑩の「その他」は本人の意思決定に依らないもの、行動障害、こだわり、医療的ケアが必要な場合等とします。

各実例のカテゴリー掲載順位につきましては実例の中で要素が強い順列でお願いいたします。また、重要で特徴あるポイント部分には下線をお願いいたします。

なお、作成につきましては本協会HPに掲載しました実例集「私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね ver.6」をご参照下さい。

- ①本人とのコミュニケーションを取るための道具使用。
- ②本人の表情の変化を観察して、意思を確認。
- ③本人の意思決定表出を受けて、実現。
- ④意思形成支援・意思表出支援。
- ⑤言葉だけでなく、実体験、経験、実践後に決める。
- ⑥意思決定を周囲で尊重できる人的・物理的環境があり、実現。
- ⑦本人の意思決定を「待つ」体制がある。（繰り返し、根気よく）
- ⑧選択肢としての情報提供により実現。
- ⑨家族や職員、周囲の人の都合が優先された。
- ⑩その他

本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例における 意思決定支援実例のカテゴリー分け要素

本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例につきましては、成功実例で分けた10の要素（以下カテゴリー）の反対と捉えマイナス（-）記号の表記で掲載しております。

なお、⑨の「家族や職員、周囲の人の都合が優先された。」につきましては、本人主体ではない意思決定の実例に該当するカテゴリーですので、マイナス記号の表記ではなく⑨の表記にしています。⑩の「その他」につきましては、本人の意思決定に依らないもの、行動障害、こだわり、医療的ケアが必要な場面等としました。

また、各実例のカテゴリー掲載順位につきましては、成功実例同様、要素が強い順列でお願いいたします。また、重要で特徴あるポイント部分には下線をお願いいたします。

なお、作成につきましては本協会HPに掲載しました実例集「私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね ver.6」をご参照下さい。

- ①本人とのコミュニケーションを取るための道具使用していない。
- ②本人の表情の変化を観察して、意思を確認していない。
- ③本人の意思決定表出を受けて、実現していない。
- ④意思形成支援・意思表出支援をしてない。
- ⑤言葉だけでなく、実体験、経験、実践後に決めていない。
- ⑥意思決定を周囲で尊重できる人的・物理的環境が無く、実現していない。
- ⑦本人の意思決定を「待つ」体制がない。（繰り返し、根気よく）
- ⑧選択肢としての情報提供により実現ができていない。
- ⑨家族や職員、周囲の人の都合が優先された。
- ⑩その他

mail: asunaro@aiikuen.or.jp

施設・事業所における「意思決定支援実例」報告用紙

事業種別 _____

（送信日 令和3年 月 日）

事業所名 _____

サービス管理責任者・氏名 _____

【作成までの手順】

- ① 全職員（全職種）から意思決定支援の成功・失敗実例を各々1事例作成してもらい、サビ管に提出して頂く。
- ② 全事例の中から特徴あり、分かり易い実例を、職員会議等で2～3の実例に絞って下さい。
- ③ 選択された実例をサビ管中心にその成功・失敗のポイントに下線を引き、成功実例は別紙1（カテゴリー分け要素）の①～⑩の中からカテゴリーを選択、失敗実例は別紙2からカテゴリーを選択し、職員会議等で協議します。
- ④ 事業所内で検討された成功・失敗の実例を各2実例ずつ挙げ、最後に集計状況欄を記入していただき人権・倫理委員会事務局に 11月30日までメールでご提出下さい。

【記入上のご留意】

- ① 過去に実際行われた支援で、分かり易い成功・失敗を各2実例ご記入お願いします。
- ② Aさん、Bさんの様に、利用者・職員が特定できない様にご記入下さい。
- ③ 成功実例・失敗実例判断、及びカテゴリーの要素が強い順に3つ以内選び、その判断は貴施設にお任せ致します。
- ④ 文章の文字に制限はありません。配慮出来た・困難だったポイントは箇条書きで記入下さい。
- ⑤ 作成については実例集「私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね ver.6」をご参照下さい。

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1.

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・
・

事業所判断ポイントカテゴリー

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-2.

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・
・

事業所判断ポイントカテゴリー

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-1.

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・
- ・
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-2.

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・
- ・
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー

【集計状況欄】

成功実例： 全部で_____件集まり _____件提出。

失敗実例： 全部で_____件集まり _____件提出。

【ご記入ありがとうございました。】

※ 報告用紙にご記入の上、11月30日(火)までにメールに添付して、人権・倫理委員会事務局（あすなる荘内）まで上記返信用メールアドレスへ、ご送信下さい。

※ 実例集作成にあたりましてご記入いただきました内容は、アンケートの集計のみに使用し、処理・集計の目的以外では使用いたしません。また、分析結果の公表時等において施設・事業所が特定されないよう留意致します。

意思決定支援実例の結果

① 本人の意思決定支援が出来た成功実例

- ・ 居住系 P 1 2
- ・ 児童系 P 2 8
- ・ 就労系 P 3 2
- ・ 日中活動系 P 3 7

② 本人の意思決定支援が困難だった失敗実例

- ・ 居住系 P 5 0
- ・ 児童系 P 6 5
- ・ 就労系 P 6 9
- ・ 日中活動系 P 7 4

③ 令和3年度 カテゴリー分類図

- ・ 成功実例 P 8 7
- ・ 失敗実例 P 8 9

④ 5年間のカテゴリー比較図 P 9 1

本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例における 意思決定支援実例のカテゴリー分け要素

意思決定支援を行う上では様々な要素（以下カテゴリー）が見られ尚且つ、複雑に絡み合っております。そのような中、福島県人権・倫理委員会では実例集作成にあたり、意思決定支援をする上でのカテゴリーを、昨年の218件のデータに基づき、引き続き特徴ある10のカテゴリーに分け、分析を行いたいと考えております。

また、⑩の「その他」は本人の意思決定に依らないもの、行動障害、こだわり、医療的ケアが必要な場合等とします。

各実例のカテゴリー掲載順位につきましては実例の中で要素が強い順列でお願いいたします。また、重要で特徴あるポイント部分には下線をお願いいたします。

なお、作成につきましては昨年配布致しました実例集「私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね ver.6」をご参照下さい。

- ①本人とのコミュニケーションを取るための道具使用。
- ②本人の表情の変化を観察して、意思を確認。
- ③本人の意思決定表出を受けて、実現。
- ④意思形成支援・意思表出支援。
- ⑤言葉だけでなく、実体験、経験、実践後に決める。
- ⑥意思決定を周囲で尊重できる人的・物理的環境があり、実現。
- ⑦本人の意思決定を「待つ」体制がある。（繰り返し、根気よく）
- ⑧選択肢としての情報提供により実現。
- ⑨家族や職員、周囲の人の都合が優先された。
- ⑩その他

○居住系

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑥**

定期通院中の待合室で本人から「今日、お父さんの命日なんだよね」との言葉が聞かれた。

「手を合わせることは出来ないけど、お墓参りにいきますか」と尋ねると、「行きたい」との返事があり、急遽、予定を変更し受診後にお墓参りを行った。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人の家族を思う心に寄り添った。
- ・予定の変更にも柔軟に対応する事が出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-2. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑥**

以前は移動支援を利用し歩行運動を行っていたが、事業所が休止してしまい歩行運動をする機会がなくなってしまっていた。半年が経ち体重が増加してきた事で、本人から「以前のように運動がしたい」との意向が聞かれた事で、職員と一緒に歩行運動をする事を提案。本人からも「やりたい」との返事があり運動を再開する事が出来、本人も楽しみにしている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人からの発信に耳を傾け、思いを汲み取ることが出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-3. **委員会ポイントカテゴリー ① ⑤ ⑧**

入所施設の利用者 B さんに衆議院選挙の投票権が送られてきた。本人の権利でもある投票権なので、職員が付き添い投票所に行き、本人の意思で投票が出来るように支援した。衆議院選挙において、小選挙区で立候補した方が B さんにはわからなかったので、立候補者の写真と氏名を教えて見せる事でどんな人が立候補したか伝えることが出来た。選挙でも小選挙区ではスムーズに投票出来た。後日、他の利用者として投票に出向いた際には、投票先の職員から「今日は写真はないですか」と聞かれ、行政側にも入所施設で生活する利用者の存在を周知するきっかけになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・前日から B さんが投票に対して公平に選択出来るように基本的な情報を提供した。
- ・写真を見せる事で視覚的に立候補者を見て選択することができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑤ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-4. **委員会ポイントカテゴリー ② ③ ⑥**

登園時より、不安定が見られ暗い表情で大きな声を出していた T さん。職員は T さんと 1 対 1 で話し本人の気持ちや体調の変化を聞き取る。T さんは音楽を好んでいたことを知っていたので、静かな部屋で音楽を聴くのはどうかと提案し、「聴きたい」と言っただけで音楽の提供を行った。その後、T さんは落ち着いて施設で過ごす事が出来た。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・普段から T さんとコミュニケーションを取り、関わり本人の好みを聞いていたので、対応が必要な時にすぐに対応する事が出来た。本人の言葉だけでなく、仕草や表情から思いを汲み取った。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5. **委員会ポイントカテゴリー ① ④ ⑤ ⑦ ⑧**

重度の知的障がい・自閉症・支援区分 6、20 代の Y さん。個別支援計画書に「外出する（職員と一緒にドライブをする）」というものを立てましたが、なかなか実行出来ませんでした。I さんは子供の時から利用している移動支援と家族の送迎以外の車に乗った事がなかったからです。色々試して 2 年が経ち、家族から「お気に入りのぬいぐるみがあると車のこだわりが減ってきました」という情報を耳にした。

ぬいぐるみを借り、それを公用車に乗せ、カードを作りました。はじめ本人を散歩に誘い（ジャンパーを見せる。これが本人の分かる事業所での散歩の確認の仕方）、散歩の意思を確認し、カードを提示すると公用車に乗れ、散歩に出る事が出来ました。ドライブ中は、ぬいぐるみを触って楽しんでいます。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人が分かるもので意思を確認した。
- ・家族と連携した。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ④ ⑤ ⑦ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-6. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑦**

一般就労をされて頑張っている A さん。本人自身の拘りで、4 年間散髪せず髪の長さは、肩くらいまでのロングヘアをされている。入浴することに対しても、やや苦手意識があり身なりも不衛生な状態が見受けられる。その中でも、A さんは、ロングヘアはかっこいい髪型だと思い込んでいる。職員から 月二回程本人へ対して散髪の声かけをして促している。動機付あり、散髪屋へ自ら行く事が出来ている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・利用者 と 職員 と の 関係性が良くなった。
- ・散髪する約 3 ヶ月前から、敢えて散髪の声かけを控え、様子を見守る事で本人自身が気付く事が出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-7. **委員会ポイントカテゴリー ② ③ ⑥**

新型コロナウイルスで外出がしにくくなり、休日の過ごし方のルーティーンが崩れて困っている A さん。日々のストレスが蓄積され本人から「もう限界だ。」と話されパニック状態となる。職員から 新型コロナウイルス感染状況や感染予防を徹底してドライブへ行って気分転換をする事を提案している。本人より、「猪苗代湖へ行きたい。」と要望を話している。休日を利用して、猪苗代湖までドライブへ行き気分転換をしている。帰路では、本人も笑顔が見られ、次に行きたい場所の要望を伝える事で見通しを持つ事が出来ている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人のストレスの原因を傾聴している。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-8. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑧**

服に拘りのある A さん。本人の好きな服、気に入らない服を提供すると脱いで下着姿になったり、自室に行き布団をかぶり「ご飯いらない」と不穏になってしまっていたが、看護師の助言もあり、好みそうな服を 2 着見せ、選択出来るよう「どっちがいい」と聞くようにしたら不穏の回数が以前よりも減った。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・認知傾向にある事も考慮し、本人の好みに合わせた服を提供する事で、落ち着いて過ごせる事が増えた。

事業所判断ポイントカテゴリー ②

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-9. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑥**

Tさんはお話好きな方であるが、居室が一番奥の為、職員との接点は少ない。又、同室者の方は静かな方達の為、会話を楽しむ機会が限られていた。そこで居室を、Tさんと気の合うお話し好きの方がいる所に居室移動してみました。そこは職員も行き交う場所なので、職員との会話も楽しめる。最近のTさんは以前より表情が穏やかになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ Tさんの性格を考え、居室を移動した。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-10. **委員会ポイントカテゴリー ① ⑥ ⑦**

知的障害と脳性麻痺による身体障害もあるHさん。グループホームで暮らし、就労継続支援B型事業所に通所している。大きな怪我には至っていないが、就労継続事業所で転倒が増えてきた事から、転倒を減らすため補装具の使用を提案され、関係者で話し合い、試着も行っていった。

Hさんへはその都度、補装具使用の是非や試着の感想等尋ねていたが「分からない」という言葉が多く聞かれ、きちんと意思確認出来ずにいた。それでも繰り返し話し合いを行う事で少しずつ思う事を言う事が出来る様にはなっていた。補装具使用についてケア会議を実施する事となり、改めてHさんが思っている事を知る為、事前に知りたい事柄を記した用紙を渡し、それに記入してもらった上で会議に臨んでもらったところ、用紙に気持ちを書き記し、書く事を色々考えたようで補装具について自分の思っている事を会議で皆に話す事も出来た。それによってHさんの不安や意思が皆で共有され、本人の思いに沿った補装具使用や、リハビリ等の支援を行う事が出来るようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 事前に用紙に記入してもらった事で、会議の際に自分の思いをスムーズに伝える事が出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1 1. **委員会ポイントカテゴリー ② ③ ⑥**

Yさん 50代 男性 知的障害中程度

今年度途中でグループホームに入居。入居時に保護者より「現金を所持すると無断外出するので不必要な現金は渡さないでほしい」と申し送りがあった。本人と話し合い、同意のもと通所事業所で使用する自販機ジュース代を毎日200円、週末の小遣い300円を当日に手渡すと取り決める。

本人より貯金箱に現金を貯金して、貯まったら好きなものを購入したいとの希望が聞かれた。保護者より缶切りで開けられた貯金箱が部屋に7～8個程あった旨の申し送りを聞いていた為、まずは週末に使用した残金をきちんと戻す事が出来たら考える旨を本人に伝えた。1ヶ月様子を見ると確実に残金が戻ってきた。本人が持っていた貯金箱は蓋で開け閉め出来る物であった為、通所事業所の協力のもと、自販機ジュース購入で出たお釣りを貯め、月の最終金曜日に貯まったお金をグループホームで数える事にした。数える時の表情は嬉しそうな様子で週末の小遣いにプラスしておやつを購入している。本人からは「今日安いジュースを飲んで〇〇円貯金した」等聞かれ、毎月少量だが、貯まるお金も増えてきている。今後、様子を見て少しずつ本人が管理出来るようにしていきたい。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・本人の「貯金して好きな物を買いたい」という希望が叶えられるよう、他事業所にも協力してもらい配慮出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1 2. **委員会ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑥ ⑧**

自閉症で発語が無く、喃語と指さし等で自身の訴えを職員にするMさん。自分の意思表出が上手く伝わらないと、抓る・頭突き・支援員室に入る等不安定な行為に発展する事もあった。これまでは支援者側の感覚で、時間帯や前後の行動から予測し、本人の望んでいる内容を判断する事が多かった。そこで、これまでの観察から得た本人の訴える可能性のあるものを写真カードの束にしてデイルームに準備した。すると、欲しい物や訴えを写真カードを使用し提示する事が出来るようになり、提示するという手段も本人に定着した。支援者側も、本人の意思表出が汲み取れるようになり、不安定な行為も減った。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・写真カードを使用する事で、本人と支援者側双方にとって意思疎通を図れるものになった。
- ・どの職員に対しても明確に意思表出が出来るようになった。
- ・本人の訴えばかりでなく、支援者側からの説明としても活用したい。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1 3. **委員会ポイントカテゴリー ④ ⑤ ⑥ ⑧**

自由時間をどう過ごしたら良いかわからない A さん。居室で座足をみている事もあれば、何もせず座っている事も多い。本人の好きそうなテレビ番組や塗り絵、音楽等を「〇〇やりませんか？」と勧めてみると「やる」と言って取り組む事が出来る。それを続けていき「塗り絵とテレビ、どっちがいい？」等の 2 択から選ぶ、それも続けていくと 4~5 つの選択肢の中からでも自分で好きな活動を選んで、自由時間を過ごす事が出来る。今は「何かやりたい事ある？」と言う問いかけに自分で考え「ビーズ」と意思表示出来る事もある。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・一定期間選択肢を段階的に増やしていく、経験をした事で、選択肢のない問いかけにも意思表出が出来るようになった。

事業所判断ポイントカテゴリー ④ ⑤ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1 4. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑧**

衣類管理は職員が行っている A 様。着ていた T シャツを指して「これはばばくせええ」と話す。年齢に見合った服装だったが、A 様は不満そうだった為、数枚の T シャツから A 様に選んで頂いた。結果、同じ T シャツを選んだ A 様だったが満足されていた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・自分で選んで頂く事が、A さんの満足に繋がった。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-1 5. **委員会ポイントカテゴリー ① ② ③ ④ ⑥**

M 様は、67 歳の男性で、言葉は発せないが、身振り意思表示が出来る方である。ある時、他利用者様のサンダルを履いて、職員に何かを訴えてきた。サンダルには大きく他利用者様の名前が書いてあり、間違えて履いている事を伝えて返してもらったが、その後も自分の靴を指さして訴えてくる。M 様は今まで、サンダルを間違えた事はないので「もしかして、サンダルが欲しいのですか？」と尋ねると大きく頷いた。どんなサンダルが欲しいのか、スマホで見せらうと、先程履いてきた他利用者様の物と同様のデザインを指さした。そのサンダルが気に入り、欲しくなって訴えて来た事が分かり、早速購入する事を伝えると、とても満足した様子だった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】本人が他利用者様のサンダルを履いて訴えて来た利用を、本人の性格や様子から想像して対応出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-16. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑧**

食事の度に「コーラが飲みたい」と強く要望する A さん。飲み過ぎの声かけに不穏になる事も多かった。健康面にも配慮し、ミニ缶（160ml）の提供を開始。ミニ缶なら3本飲んでも500mlのペットボトル1本分なので食事の度に提供する事が出来、不安定になる事も減った。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・希望を叶える為に考えて提供する事が出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-17. **委員会ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑧**

おしゃれで衣類へのこだわりが強い B さん。気に入った衣類は季節に関係なく洗濯もせずに着続ける。コロナ禍で自由に買い物に行けないので購入の際、色やブランド等 本人の希望を聞きお店で写真を撮らせてもらい、B さんに確認してから購入することで、気に入った衣類が増え季節感や清潔に配慮した衣類の着用ができるようになった。

今後はインターネットを利用した購入も検討している。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・自分で買い物に行った時と同じような状況で、確認しながら商品を選ぶことができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-18. **委員会ポイントカテゴリー ④ ⑥ ⑧**

利用者 A さんは、こだわりが強く支援への拒否がある。日常生活はほぼ自立出来ていますが、入浴拒否があり、水虫や手のしもやけに悩まされていた。こちらから入浴の声かけをしたり、支援を申し出るが、拒否があったためなかなか進めることができないでいた。アプローチを変えて、本人が自分でどうしたら入浴することができるか、聴くと「時間がかかるから後の人に迷惑がかかる」との返答があった。そこで、他の利用者が入浴しない時間帯（午前中）に入浴してはどうか、通所している就労継続 B 型事業所に協力を仰ぎ、午後からの通所できるように送迎を調整していただき、本人に提案すると「それでいい」とのことで、午前中に入浴することができた。水虫やしもやけもよくなってきている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人の希望を聞き、入浴する時間を変更したこと。
- ・本人は通所している事業所に通いたい希望も叶えられたこと。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-19. **委員会ポイントカテゴリー ⑤ ⑥ ⑧**

貧血傾向の A さんは肉と魚が苦手です。食事をしっかり食べることで、貧血も改善することを A さんに伝えた。 外食支援の際に A さんに苦手な肉や食べ物でも、味付けや体にいいものなど伝え、実際手に取って見てもらうことを提案した。 A さんがチャレンジしたいと食べてみると「美味しい」と言って、食への興味が増え、今まで苦手意識で食べられなかったものが、食べられるようになり A さんの自信にもつながった。貧血も改善傾向にある。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・事前にチラシを見せたり、実際お店で見ることで、自分で選ぶことができた。
- ・前向きな声掛けをし、A さんがワクワクする気持ちを引き出すことができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑤ ⑧ ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-20. **委員会ポイントカテゴリー ① ③ ⑥**

初めての場所に行くとき緊張して硬直してしまい、本人が行きたい場所でも入れないことがある A さん。今回、水虫の疑いがあり、本人からも通院したいと希望があった。 日時、場所、誰と行くかなど本人希望の絵と応援メッセージを書いた手紙を渡し、1 週間前から事前に本人が前向きになれるような声掛けを工夫した。 その結果、初めての皮膚科に通院することができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人の緊張してしまう気持ちに寄り添い、配慮することができた。
- ・手紙に日時や誰と行くかなど明記し、見通しがつくようにした。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-21. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

F さんは塗り絵が好きで、毎日頻回に塗り絵帳の要求があった。特定の職員に要求することが多くその都度対応していたが、新しいものをもらおうと一気に塗りすぐに要求し、その繰り返しで指ダコもできてしまった。そのため、午前と午後にそれぞれ決めた枚数を決めた時間に渡すようにしたところ、本人も持っている塗り絵で納得し、職員間で統一した支援を行ったことで本人の混乱も招くことがなくなった。 更に指のタコも改善された。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・職員により対応の差が生じないように決まり事とすることで統一した支援を行うことができ本人も納得できた。
- ・枚数や渡す時間を定めたことで、頻回に要求があっても統一した声掛けを行うことができ理解を得られた。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-2 2. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

入浴時、Sさんは自分で着替えを準備する。職員が確認すると足りないものがあることがほとんどで、その都度「下着がないので持って来てください。」等と声を掛けると同時に、実際に着ている下着を指差しながら説明することで、「これ。おっけー。」と返事をし、足りなかった下着を準備することができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・言葉のみでなく、対象物を見せながら説明することで本人も理解しやすかった。
- ・最後まで自分で着替えの準備を行えたことで、本人も達成感を得られた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑤ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-2 3. **委員会ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑥**

想いを伝えることが難しいTさん。想いを伝える際には壁やテーブルに指で文字を書いたり、簡単なジェスチャーを通して概ね意思疎通を図ることが出来ている。しかし、様々な要望があった際や単語のみでの筆談では十分に想いが伝わらないケースがあった。そういった場合には紙を手渡し、筆談でのコミュニケーションが有効的であった。分りやすい表現を意識しながら筆談をすることで一定の理解を得ることができ、要望に添った形での支援に繋げる事が出来た。

・職員との関わりを好んでいることもあり、居住棟以外にも事務所へ行き会話を楽しみたい要望が普段から見られていた。今までは筆談で伝えていたが、もっと気軽に行けるよう事務所の実際の写真と一緒に「事務所へ行きたい」というラミネートを作成した。ラミネートを提供した後は想いを表出することが容易となり、普段の生活において1つの楽しみとなっている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ご本人の能力に応じたコミュニケーションの方法を職員間で話し合い、取り組んだ。
- ・どうすれば伝わり、想いに寄り添った支援に繋がるのか日常の何気ない一場面から一つずつ積み上げ、構築していった。
- ・要求があった際に直ぐに使用しやすいツールを用いることで根底にある想いにより近づくことが出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-24. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑥**

Bさんは午後の始業時間頃になると、いつも座っているソファから立ち上がり、浴室へ向かおうとする。また、職員が入浴介助の服装に着替えたのを見て、浴室へ向かう。しかし、入浴時には早く、浴室準備が整っていないため浴室へ行くことが出来ない。その後、脱衣、放便放尿等不衛生な行為が頻繁に見られるようになった。

そこで、入浴日の午後は1番にBさんに対応することを周知。浴室準備を済ませ、トイレ誘導し浴室へ向かう流れを整える事で放便放尿の行為はなくなった。脱衣時も巻きタオルを準備する事でプライバシーに配慮しながら、安心して浴室まで移動出来た。入浴がない日も浴室へ向かう姿があった際は、浴室まで誘導し、納得して頂く事で不衛生行為はなくなった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・入浴への要望を否定しなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ④ ⑤

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-25. **委員会ポイントカテゴリー ①**

見通しがもてないと不安になるK様について

Kさんは、ドライブが好きで車が動いているのを見るとドライブに行けると思い、自分の頭を叩き声出する姿があります。特に生活介護がない日は空き時間が多く不安になることが多く見られました。カードを用いて1日のスケジュールをAM,PMに分けお伝えをし、ドライブのある、なしもスケジュールの中に組み込み対応しました。都度、カードを見るが増え、余暇時間の声出し等が減りました。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・1日のスケジュールを一緒にその都度確認し、見通しをもって生活できるよう支援できた。

事業所判断ポイントカテゴリー ③

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-26. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑥ ⑧**

新型コロナウイルス感染者が、いわき市で増加しており、外出や帰省が中止となっていた。利用者 A さんから、保護者に会えないので何かプレゼントを贈りたいとの要望があった。職員が A さんから何をプレゼントしたいのか保護者の方の好み等を聞き、買い物を代行した。購入した数枚のハンカチの中から保護者へのプレゼントを A さんが選び、郵送する事で本人の満足につながった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・利用者 A さんの保護者に会いたいという気持ちを受け止め、新型コロナウイルスの影響で会えない分、何か別の方法がないかを一緒に考えた。
- ・A さんからプレゼントを贈りたいとのアイデアが出され、要望（好み）を聞きながら職員が購入し、さらに購入した物の中から A さんに選んでもらうことで「選ぶこと」にも配慮した。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-27. **委員会ポイントカテゴリー ① ③ ⑥ ⑦**

N さんは、ケアプランの要望や、イベントへの参加等意思確認の場面で黙り込んだり、話し合いに応じるまでに時間を要するなど積極的に意思表示を行うことが少なく、正確な意思確認が難しい方である。ある日、活動参加の意思確認の場面で居室にあったパンダのパペットを使用して N さんはどう思っているのかと問いかけたところ、「N さんはやりたいと思うよ」「N さんはあんまり好きじゃないと思うよ」とパペットを使用して答えることができたため、希望を受けて活動を行った。その後も、職員は N さんがどう思っているのかを知りたいと思っていること、嫌なことはしないということを繰り返し伝えつつパペットを使用してやり取りを行ったところ、「職員に話してもいいかな」とパペットを通してなら伝えられることを教えてくれ、その後の意思確認もスムーズに行えるようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・以前、やり取りの場面でパペットを使用した経験があり、N さんも使用しやすかった。
- ・自分が行いやすい方法で意思表出しても意思を受けてもらえる安心感が持てたことや、職員と実現できる信頼感を体感したことにより、他の場面でも汎化できるようになったものと思われる。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑥ ⑦ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-28. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑤ ⑥ ⑦**

障害特性として、肢体不自由(車椅子)、重度知的障害がある 50 代の利用者 A さん。以前は他者の靴を投げたり、車椅子から降りて他の利用者を這って追いかける等、周囲からの苦情に繋がる行動が多く見られていた他、昼夜逆転の傾向が見られていた。また、本人から職員に対して意思の表出はそれほど見え無かった。そんな利用者 A さんの満足に着目した支援として、大きく 4 つある。①お茶の時間に提供するお菓子を充実させる。②体に合わない古い衣類を全て処分し、新しいものに入れ替える。③睡眠の質の向上。④ユマニチュードの 4 つである。まず、①として、長期祝日や、季節の行事(バレンタイン等)に普段とは違った食べ物やお菓子を提供した。また、一緒に買い物外出に出かけた際には、本人が食べたい物を指を指し教えてくれる事が分かった。(おせんべいが好き)②として、本人と一緒に衣類を購入しに向かい、試着を行う事で体に合った負担の少ないゴムウエストでストレッチ素材のズボンの購入を行った他、足の浮腫み対策として着圧ソックスの使用を開始した。③として、夜間少しの音でも目を覚ましてしまう A さんを一人部屋にして様子を見た。夜間入眠している時間が長くなり、日中も覚醒している時間が多くなっていった。④として、ユマニチュードの実践。本人に触れる、見る、話す、立ち上がるストレッチを常に行った。また、靴下を投げてくれば投げ返し、靴下でキャッチボールを行うなど、本人と少しでも関わりを持ち、笑顔にする事を心がけ支援にあたった。

このような支援を通して、本人の様子や支援の在り方を意識する事で本人には以前から意思が形成されていた事を理解した。本人は、ただ意思を伝える事が出来る人を待ち望んでいたのではないだろうかとも感じた。現在は、排泄の意思を自ら職員に訴える事ができている。衣類に関しても、紐がついた衣類を気に入り、その衣類を着たいという思いを指を指して教えてくれる。入浴も、本人が入りたいタイミングで自ら移動する。耳かきが好きで、耳掃除中は、もっと続けて欲しい思いを、職員の腕を掴んで自身の耳に職員の手を持って来る、手が届かない背中が痒い時には、職員の腕を掴んで首の後ろに職員の手を持って来る等、クレーン動作で意思を表出している他、「8 時だよ全員集合」、「ドラえもん」を見ている時には、笑顔で嬉しそうに鑑賞している。食事の時には、真っ先に食べたい物を選ぶ等、生活の随所に意思表出が見られている。また、車椅子を自走する事を覚え、這って移動する事も少なくなった。今年の 4 月にバスで古殿町に出掛けた際には、不安からなのか、隣に座った職員の手を終始握っていた。そして、以前よりも遥かに表情豊かに生活している。意思表出の幅を広げる為に、今後も本人との絆を第一に、様々な経験や体験をして頂く事が、本人の生活の質、人生の質に繋がっていくと確信できた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 普段の関わりや買い物などを通して、本人の表情の変化をよく観察し、しっかりとした意思が形成されていることを確認した。
- ・ 本人が意思を表出した時に、それを受け止めてくれる人的環境があることで、意思の表出が増えていった。
- ・ お茶の時間のお菓子を充実させたり、洋服を本人の体形や動きに合わせたものにする事、小さなことでも希望を聞く事を続ける事で「大切にされている」という承認欲求を満たせるよう努力した。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑩

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-29. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑥ ⑦ ⑧**

昼食前、Kさんのスケジュール確認の際、午後の活動を作業所から別な場所での活動へ変更したいと申し出があった。昼食後に再度確認したところ、少し迷っている様子が見られたためもう少し考えるか問うたところうなずいて返事をした。時間をおいて再度確認すると、「お仕事、何があるかな？」と尋ねてきたため、作業の種類を確認してから活動を決めるか尋ねると「そうしたい」とのことであったため、作業種目を確認してKさんへ伝えた。すると、Kさんは「お仕事頑張る」と話し、午後の活動を作業所で行うと決めることができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・Kさんが迷っている様子を見て時間がないとせかすことなく、どうしたいか決まるまで答えを待てた。
- ・何の作業があるのか気にした様子を受けて、作業所へ作業種目を確認し、Kさんが活動を決めるための情報提供を行うことができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑥ ⑦ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-30. **委員会ポイントカテゴリー ④ ⑥ ⑦**

昨年からの整容（髭剃り、爪切り）支援を受け入れないAさんのケース担当となった。コミュニケーションを取ることから徐々に始め、本人の拘りである洗濯のための洗剤購入を代行で実施した。一つずつ職員への要望が増え、どのような内容でも自分で伝える事を称賛していった。また、一番心を許している母との連絡した際にも、自分から伝えた事を称賛したことで徐々に本人のやる気が出てきた。爪切りを職員から声掛け、受け入れたことを称賛する。次に髭剃りも同様に支援し、次第に自分から整容して欲しいと伝えることが出来ていた。職員からではなく自分で伝える事が出来た事を称賛することで習慣化されている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・整容はしなくてはならないものだが、負担にならないよう一つずつ目標を立て、都度称賛した。
- ・本人とコミュニケーションを取ることによって心を開き、さまざまな事を話すようになった。
- ・習慣化出来るよう、同じ内容でも称賛した。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ② ③

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-3 1. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑥**

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以前通っていたA事業所に行けない日々が続いていたY様。施設生活では思うように楽しみを見つける事が出来ず、A事業所に行きたい気持ちばかりが大きくなっていった。他利用者がコロナ禍でありながらも、同敷地内のB事業所に通っているのを見て、「B事業所に行きたい。」と話すようになった。その気持ちは続き強い意志が感じられたため、B事業所へ見学を行う事になる。見学後は、すぐに「やってみたい。」という希望が聞かれたため、体験を行う事となった。体験では1日中立ち仕事であり、体力的には大変な仕事であったが、体験を通してさらに「このまま通いたい。」と話すようになった。しばらく体験を続けていたが、その意思が変わらなかったため、正式に利用する事となった。現在の所、休まずに通う事ができている。また、施設生活においても意欲的に係の仕事などをこなしている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ Y様の気持ちを受け止めるようにした。
- ・ 同敷地内のB事業所であり、すぐに対応する事ができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-3 2. **委員会ポイントカテゴリー ① ④ ⑥ ⑧**

日中活動時、「何がしたいですか?」「何をしますか?」と声かけだけではなく、今準備できる物や対応可能な活動を説明し選択してもらった。聞き取りが困難な方には、筆談やジェスチャーを交えて伝えることで意思決定支援に繋げることができた。

【配慮できたポイント及び考察 等】

大まかな声かけや説明だけでなく、具体的な活動内容の説明や筆談やジェスチャーな等、視覚的にも読み取れる工夫をした。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ④ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-33. **委員会ポイントカテゴリー ③ ④ ⑥ ⑦**

Yさん、Sさんよりマンガが欲しいとの要望があった。コロナ禍で外出が難しいため職員代理購入で買物を行った。どのようなジャンルの本が欲しいのか聞き取り、希望の本を購入した。IQは高い方であるが、思いを言葉にして伝えるまでに時間がかかったり、具体的な言葉にすることができないため、時間をかけてゆっくりと聞き取った。結果、希望に添った本を購入できた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・気持ちを言葉にするのが難しい方だが、これまでの関わりの中から本人の思いを推測し、代弁して、確認しながら希望の本の購入につなげることができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ④ ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-34. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑧ ⑤**

日中活動を楽しめていない方がおり、希望を伺っても答えられずにいた。本人の好みや能力からアイロンビーズを使った制作活動を提案した。結果、本人の好みに合った活動だったようで、毎日楽しんで取り組む姿が見られるようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・重度の方が多く、希望を伺ってもやりたいことがわからない、どんな活動ができるかわかならうとなることが多い。今回は本人の普段の様子を観察していたことで新しい選択肢の提供につなげることができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-35. **委員会ポイントカテゴリー ① ④**

新入所者Dさんは言葉を発しない傾向があり、なかなかコミュニケーションが取れなかったが、文字がある程度かけることもあり、ボードを使いコミュニケーションを取ることを試みた。本人も楽しみながら書くことができ、決定の判断、気持ちを引き出すことができてきた。言葉でも返事をするようになる。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・個別で対応することで本人も素直に表現ができていた。
- ・レポートが取れてきて、言葉での確認もできるようになってきた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ②

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-36. **委員会ポイントカテゴリー ⑧ ⑦**

余暇時間に共有スペースで過ごす時、他利用者が楽しむ様子を覗き込んだり、テーブルを叩いたり手拍子の行為が迷惑と捉えられてしまうNさん。新聞、雑誌を眺め落ち着いて過ごすこともあるが、他の利用者が見ている雑誌を断り無く持っていきることがあり、個人所有の雑誌購入を職員が代行し、一目で自分の雑誌と分かるように本に本人の顔写真を貼る。好みを確認する為車・旅行・食べ物の雑誌を5~6冊提供し様子を見た。破く雑誌もあったが、写真を指さし笑顔で眺める雑誌もあった。このことから本人の好む雑誌の傾向が掴め、常に提供することで、落ち着いて自分一人で過ごす機会が増えた。顔写真を貼ったことで自分の雑誌であることに喜びを感じている様子があり、他の利用者が見ている雑誌を欲しがることが減った。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・雑誌を複数提供し、破いてしまうこと、散らかすことを一定程度容認することで、意思の表出を促した。
- ・顔写真が貼ってあるケースに顔写真が貼ってある本を入れ渡すことで所有する喜びが持てるようにした。また、他の利用者からは本人の所有物と認めてもらえるようにした。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-37. **委員会ポイントカテゴリー ③ ① ⑧ ④ ⑥**

コロナ禍で利用者個々の希望に応じた買い物等に出掛けることが出来ない状況が続き、利用者の楽しみのお機会が減ってしまった。そんな中、定期的な利用者との話し合いの中で「アイスが食べたい」「パンが食べたい」等と好きな物を食べたいとの要望が多数聞かれたため、毎月利用者に要望を伺って個々の希望に応じた物を代理購入して提供する機会を設けるようにした。要望を聞き取る際、個々の要望や意向がより細やかにくみ取れるよう、多くの選択肢（絵カードや写真）を準備して選択できるようにした。また、聴き取り結果を含め日々の支援の中で新たにくみ取れた希望や嗜好等を、速やかに選択肢に反映するようにした。「次はいつ？」等と話す方もおり、利用者の楽しみにつなげることもできた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・発語がない方でも、絵カード等の視覚的な配慮をすることでより細やかな意思決定を支援することが出来た。
- ・多くの選択肢を提供し、それを随時見直していく形をとることで、個々の意思形成（経験等）にかかる支援の促進を図ることができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-38. **委員会ポイントカテゴリー ① ③ ⑤**

Kさんは、来所時や帰宅時に苦手な利用者から避けるために走って自分のスペースに行くことがあり、他の利用者にぶつかる事もあった。そのため支援会議で話し合う。

会議後Kさんが苦手な利用者とは合わないように個別に下駄箱を作った。その後、来所時や帰宅時の走る回数が以前に比べ減った。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・支援会議で話し合い統一した支援を行った。
- ・個別対応を行った。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑧

○児童系

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-39. **委員会ポイントカテゴリー ③ ① ④ ⑦**

<個別支援の場面で> Aさん(学童)

普段はことばでのやり取りが十分可能なAさんだが、気持ちが沈んでいたりすると自分の状況をことばで伝える事が難しく、黙ってしまう事がある。

この日もある出来事をきっかけに気持ちの切り替えが上手くいかず、職員からの問いかけなど応じられずにいた。そこで、職員が「お手紙でなら言えますか？」と尋ねると頷いた為、紙と鉛筆を渡すと「〇〇がしたい」と書いて職員に渡せる。職員もそれを受け入れ、その後は要望が叶った事で次第にAさんの気持ちも上がり、会話も出来ていた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・意思表示の方法を工夫した。
- ・本人に付き合う(待つ)時間がとれた。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ④ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-40. **委員会ポイントカテゴリー ①**

＜個別支援の場面で＞Bさん(未就学)

Bさんは発音が不明瞭で、単語もしくは二語文くらいの表出である。家族や慣れた職員は本人の伝えたい内容が分かる事も多いが、十分に理解出来ない事もあり、これまで何度か聞き返してしまう場面があった。

最近文字が読めるようになってきた事を踏まえ、こちらが理解出来ない時にひらがな表を提示してみたところ、Bさんが指で1文字ずつ示してくれて(完全ではなかったが)伝えたい事が分かった時があった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・発話による表出にこだわらず工夫出来た。
- ・本人の成長に合った支援が出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ④

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-41. **委員会ポイントカテゴリー ③**

車のエンジン音へのこだわりが強い未就学男児が、音を聞きたいあまり駐車場へ走り出してしまい危険な場面が見られていた。本児の欲求を満たす方法として、よく見える場所の窓を開けそこから音を聞くように提案する。実際に行ってみた所、とても満足し、外への走り出しは無くなった。現在は、自分でその場所に行き楽しむ事が出来ている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本児の気持ちを大事にし、提案という形で伝え試しに行った。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ④

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-42. **委員会ポイントカテゴリー ① ③**

送迎の際、未就学児のAさんとBさんは乗る座席について取り合いになる事がある。落ち着いている時お互いの意見を確認し、ルール化する。見て分かるよう、行きと帰りの座席表の写真カードを使い提示した。現在はけんかもなく、自分からその時の順番の席に座る事が出来ている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・けんかになると興奮してしまう為、落ち着いている時に双方の意見を確認した。
- ・理解しやすく忘れないように視覚的ツールを使用した

事業所判断ポイントカテゴリー ③

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-4 3. **委員会ポイントカテゴリー ①**

口頭指示のみで行動することが難しい利用児に対して、ことばと一緒にジェスチャーを加えて伝えることで、やるべき行動へ誘導することができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・視覚的に見て理解しやすいように伝えた。

事業所判断ポイントカテゴリー ①

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-4 4. **委員会ポイントカテゴリー ① ④**

部屋で過ごすことが多く、職員とのやりとりもメモ用紙のみである。発語がない為、筆談でのやりとりである。悩んでいること、したいこと、欲しいもの等、気軽に伝えられるように筆談ノートを作成し記入してもらう。以前より悩みや困っていることを多く伝えられるようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・意思表示する手段が増え、伝えやすくなった。
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー ① ④

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-4 5. **委員会ポイントカテゴリー ⑨ ⑥**

Hさんは職員のことをある程度理解することができ、要求や訴えも、簡単な言葉ではあるが伝えることができる。しかし、周りの刺激に弱く、機嫌良く過ごしていても、年少児の甲高い声が刺激となって、暴力や他害に繋がってしまう。周りへの配慮も含め、本人が落ち着いて生活できるよう、TVを居室に設置してTV視聴を提供したり、ポータブルDVDでDVD視聴を提案したり等、なるべく刺激を受けずに自分の好きな時間を過ごせるようにした。結果、本人も居室で過ごせることが増え、不穏や他害も減ってきている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・環境作り（余暇提供）と本人の生活状況の分析

事業所判断ポイントカテゴリー ④ ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-46. **委員会ポイントカテゴリー ① ⑦ ④**

自閉症 9歳男児。会話での意思疎通は不可。

余暇や生活における絵や写真のカードを準備し、本児が職員に渡すことを教えていくことで、自分で遊び等を選んで意思表示をしたり、コミュニケーションがとれるようになってきた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本児の要求がわかり、希望に合う支援がしやすくなった。

事業所判断ポイントカテゴリー ④ ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-47. **委員会ポイントカテゴリー ① ⑦**

自分のタイミングでトイレに行くのが難しい利用者さん。定時に職員から声掛けし、トイレ誘導していたが行動が難しかった。そこで統一した伝え方として、視覚的にトイレカードを提示することでスムーズに行けるようになった。本人の中ではカードの方が理解しやすく行動しやすくなった。また、トイレでの排泄ができた場合は、視覚的に分かるようにポイント制度を導入した。ポイントが貯まるごとに自信もついてきた様子で、自発的な行動も見受けられてきた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人への伝え方を視覚的にカードを使用することで理解しやすくした。
- ・成功体験をもとにポイントが貯まる仕組みを導入し、自らの意思で行動できるようにした。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-48. **委員会ポイントカテゴリー ① ④**

洗髪で頭頂部付近を何度も洗い、後頭部や頭のわきを洗うことが難しい A さんに声掛けだけでは指示が通じなかったが、イラストを提示し洗う回数を明示することで自発的に洗おうとする姿が見られた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・イラストと回数を明確にすることでより簡潔になり、理解につながったと思われる。

事業所判断ポイントカテゴリー ①

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-49. **委員会ポイントカテゴリー ⑦ ⑥ ⑤**

Aさんは、法人内の入所施設で、コロナワクチン接種困難者を対象としたワクチン接種を行う事になった。会場に着いてから、ワクチン接種を怖がり「注射、嫌」と言って会場から逃げ出してしまった。時間をかけて注射は痛くない事、コロナにかかりにくくなる事、単身赴任で関東に行っている父親に会えるようになる事等を繰り返し説明する。繰り返し説明をする事で、Aさんも徐々に腕を出して「チク、痛くない」と言うようになったが、接種場所には行く事はできなかった。その為、医師に本人がいる場所まで出向いてもらい、何とか1回目のワクチン接種を行う事ができた。2回目の接種は、1回目の経験があったためか1回目程の抵抗感は見られず接種する事ができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ Aさんの恐怖心をできるだけ軽減できるように、時間をかけて繰り返し説明を行った。
- ・ 注射嫌い、病院嫌いで注射をした事がなかったが、注射を行う事ができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-50. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑥ ⑤**

Aさんは、就労を目指していることから「施設外就労（清掃）にも参加したい」と希望していた。Aさんは左上下肢機能障害があり、清掃は転倒などの恐れがあるため難しいと思っていたが、本人の希望は強く、まずは参加が可能か体験を行うとともに、出来る事、難しい事は何か把握を行った。その後、支援会議で意見を出し合い、難しい事に関しては他利用者の方と組みで行うことにし、Aさん用の手順書を作成した。一緒に組む利用者の方にも理解していただき、試行してみたところスムーズに清掃を行うことができた。現在Aさんは定期的に清掃作業に参加することができている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 施設外就労に参加したい思いを組むことが出来た。
- ・ 本人が出来るように工程を考えた。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5 1. **委員会ポイントカテゴリー ④ ⑥**

Mさん(知的障害)

新しい作業には抵抗があり、1度学んだ作業工程の変更は難しく、自分のペースやこだわりを大切にするMさん。ある日、職員が新しい作業の段取りを隣で行っていると、Mさん「これは何ですか？」職員「新しい内職です。お願いしてもよろしいでしょうか？」Mさん「はい」との会話があり、新しい作業を提示する事になった。

作業提示の際、視覚化（作業手順のプリント）、一つ一つの工程の細かな説明、見本提示を行った。

その後の作業では、戸惑う事もなく、スムーズに作業に取り組む事ができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 隣で段取りする事で、新しい作業に興味が出てきた。
- ・ 作業説明時、視覚化、細かな説明を重視した支援を行った。

事業所判断ポイントカテゴリー ④ ⑥ ②

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5 2. **委員会ポイントカテゴリー ① ⑥**

Sさんがお昼休みお弁当を食べる時間が徐々に遅くなり、午後の作業開時刻に準備遅れる状況となった。Sさんには時計のイラストを使用してお昼休みの過ごし方を時間単位で見せて頂き、午後の作業開始時刻までに昼食を取り、昼休みのルーティーンを済ませる事が出来るようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 時計のイラストを使用して昼休みの時間の過ごし方を理解して頂いた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑦ ① ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5 3. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑦**

製品のバリ取り作業に取り組んでいたAさん。以前、不良を多く出してしまった製品のバリ取りに組みたいが、不安な気持ちになってしまうとのことであった。Aさんの気持ちを傾聴し、再度バリの取り方の説明を行った。確認後も一緒に作業に取り組み、不安な場所の確認を行いながら繰り返し練習を行う事で、作業ペースが上がり不良を出すことなく綺麗に仕上げる事が出来るようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 繰り返し一緒に練習することにより「できる」という自信に繋がった。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5 4. **委員会ポイントカテゴリー ⑦**

知らない所、暗い所が苦手な A さんは、苦手なことには絶対的拒否がありました。毎回トイレ誘導の声掛けを根気よく続けた結果、現在では自ら、明りなしでもスムーズにトイレに入る事が出来るようになりました。また、新しい職員のトイレ誘導も初めはなかなか難しかったが、根気よく行う事でスムーズに誘導が出来るようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・同じ時間帯、同じ場所のトイレで入る前に電気を点灯し明るくドアをオープンに拒まれても諦めずオムツ交換はトイレで行うと言う事を分かって頂く為続けた。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5 5. **委員会ポイントカテゴリー ① ⑥**

・利用者Hさんは歩行に困難があり一人で歩くと転倒に繋がる恐れがあります。席を離れる際は職員が側に付き添うこととし、側に職員がいない場合職員を呼ぶように本人と話しあいました。始めは鳴子を活用したが、担当職員より電波で飛ばせる器具を活用したいと意見が出ており、電波で飛ばせる器具を活用する事としたところのスムーズに取り組む事が出来ています。

【配慮出来たポイント及び考察 等】・

・音がなる事で回りの利用者さんも気づき職員に声掛けを行ってくれる。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-5 6. **委員会ポイントカテゴリー ④**

新型コロナウイルス感染症対策中の為、全利用者に施設利用中はマスクを着用するように伝えている。利用者Cさんは施設内でマスクせず独り言を言いながら歩き回ることが多くあった。支援員が「マスクをして下さい。マスクをしないとダメですよ。」と声をかけると、利用者Cさんは「うるせえ」と声を荒げテーブルを叩くなどマスク着用を拒否することが多くあった。そこで、マスクを着用するように伝える方法ではなく、「マスクできますか？」と質問する方法をとった。利用者Cさんは「できる」と静かに答え、ポケットからマスクを出してマスクを着用した。その後も繰り返しマスクを外すことはあるが、その都度「マスクできますか？」と質問をすると「できる」と返答しマスクを着用するようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・利用者Cさんは指示や命令のような事には反発的な態度をとる傾向にある。
・「マスクをしないとダメ」「マスクをしましょう」というような指示的な伝え方ではなくで、できるかどうか本人に質問することで自らマスクを着用する選択をしてもらう事ができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-57. **委員会ポイントカテゴリー ④ ⑤**

利用者 A さんが、「私も海苔作業をやってみたい。」と、職員 B に話しかけてきた。以前、従事していたこともあったが、多汗症により海苔が湿ってしまうため、職員の意向により作業から外れていた。職員 B が「やってみましょうか。」と促すと、A さんは、以前、海苔を湿らせて怒られたことがあることを気にしており、複雑そうな表情だった。

職員 B が、A さんが作業する場所にペーパータオルを用意し、「大丈夫です。私も汗かきですので、一緒に拭きながらやりましょう。」と、一回ごとに手を拭いて作業を行うように声掛けすると、明るい表情が見られ、意欲的に作業に取り組んだ。

A さんは、元々、作業自体の能力は十分にあったため、困りごとが解決されたことにより、意欲的に作業に取り組むことができたものと思われる。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人の困りごとを解決できるような具体策に力点を置いた。
- ・本人の意思表出、意思決定を尊重。失敗の許容、挑戦への応援により、できないことへの恐れや不安を軽減し、安心感を持って作業に取り組めるように配慮した。

事業所判断ポイントカテゴリー ④ ⑤

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-58. **委員会ポイントカテゴリー ⑧**

計測の仕事でデジタル計りの表示される数値の桁が多く、確認することができなかった A さん。
職員から必要な数値（十の位、一の位）のみ確認してもらうことで作業に参加することができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・2桁を確認することができれば、間違いにも気づけた。
- ・今までできなかった作業も参加することで、作業の幅が広がった。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑤ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-59. **委員会ポイントカテゴリー ⑤**

就労継続支援 B 型を利用している A さん。銀行で生活費をおろすため、毎月の工賃支給日に職員が付き添い、A T M の利用の仕方についてレクチャーをしていた。はじめは端末の操作の仕方、画面の見方などが分からず不安もあり、苦勞していたが、回数を重ねるにつれて少しずつ理解できるようになっていった。たまたま本人の用事や施設の休園が重なり、職員の付き添いが出来ず、自分ひとりで行かなければならない状況になった月があった。事前に操作の仕方や困った時には銀行の方に声をかけるよう伝え、後日話を聞いたところ一人で出来たとの話があった。それ以降、本人が一人でお金をおろしに行ける月が少しずつ増えてきている。何か困ったことがあった時にはまた職員がアドバイスをするので声をかけてもらいたいことを本人に伝えている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・一人でお金を引き出すことができた成功体験が本人の自信につながったと思われる。
- ・繰り返し A T M の使い方についてアドバイスをしてきたことで経験を重ねることが出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑤

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-60. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑦**

昼食時、「食べない」と言って動かない A さん。体調の変化や心配事があるか問うが、理由が不明。何度か声をかけた後、時間をおいて本人の様子・気持ちの変化を待つ。15～20分後再び声をかけると、気持ちが切替わりスムーズに食事を摂る。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・②表情の固さから、少し待つ時間が必要と判断する。
- ・⑦待つ時間を設けたため、落ち着きを取り戻せた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-6 1. **委員会ポイントカテゴリー ① ② ⑦**

自主的に行動（日課ごとの場所移動など）がとれず、更衣室から出てこれない、時間になっても移動ができないTさん。他の利用者・職員の促しを待っている状況。

人前で声を出さないので意思表示確認が困難。イラストや筆談等（非言語コミュニケーション）を取り入れ、反応（返答）を待つ。利用開始後8ヶ月が経過し、返事はうなづくことで意思表示ができるようになってきた。問いかけに対して笑顔や首振りでも返答することもみられてきた。

自主的に行動できるまで、繰り返し促し、見守り、適時声かけのタイミングを減らしていけるようにする。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

○日中活動系

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-6 2. **委員会ポイントカテゴリー ③ ② ④**

Aさんは、毎週水曜日・金曜日に実施される園外ウォーキングに毎回参加していたが、今回（水曜日）に限って参加しないとの意思表示が見られた。支援員としては、「参加してほしい。今回参加しなければ、また次も参加しないのではないかと。良い習慣が崩れてしまう。」との気持ちが強かったが、本人の気持ち（意思）が一番大切であり尊重されるべき事として捉え、今回のウォーキングは不参加となった。室内活動に参加し、自らの選択のもと教材（ビーズの色分け）に集中して取り組むことが出来ていた。また、次（金曜日）の園外ウォーキングでは、自ら進んで参加する姿が見られた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・結果を先読みして支援員側の思いを押し付けてしまう事なく、本人の気持ち（意思）を最優先とした事
- ・単に参加したくないのではなく、そこには本人なりの理由があると捉え、その理由や背景を探ることが出来た事
- ・支援員単独で判断してしまう事なく、チームとして明確な方向性のもと対応することが出来た事

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-63. **委員会ポイントカテゴリー ③ ⑤**

・コロナウイルス感染拡大の影響により、障がい者体育大会が中止となった。毎年楽しみにしている行事の一つがなくなってしまった為、施設独自にスポーツ大会を行った。競技内容を考え、フライングディスクやボウリングの他、玉入れや10m走等のスポーツを行っている。みなさん楽しんで意欲的に参加する様子があり、行事を行ってよかったと感じた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・参加することが楽しみとなっていたため中止のお知らせに残念そうな表情が見え、すぐに変わるものを検討した。
- ・人数を配慮し、密にならないようセッティングできた。
- ・参加の有無についても、本人の意思を尊重した。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-64. **委員会ポイントカテゴリー ② ⑤ ⑥**

ブロックをつかむ、音をたてる、投げる、机や壁を叩く等、大きな音が大好きな様子が見受けられていた。投げる事で他の利用者にぶつけてしまう危険性がある為、代用できるものとして鈴の入ったボールを提供したところ、とても気に入った様子がみられた。常に手に持ち、落ち着いて鈴の音を楽しむ様子がみられている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人が好きそうなものの代替えを見つけた。
- ・問題となる行動を強みに替え、教材を探した。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ⑤ ⑧ ⑩

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-65. **委員会ポイントカテゴリー ② ③ ⑧**

S(女性)さんは自分の訴えを言葉で表現できないため、何か不満がある時は大声を出したり、失禁、物を投げる等で意思の表出をしていた。支援者が絵(トイレ・マスク交換)カードを作成することで、Sさんの好きなタイミングで行えることができるようになった。その後、婦人科にも受診できるまでになり、1つの病気を発見でき、現在は内服が処方され服薬している。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

・Sさんの伝わらない事へのいらだちが絵カードで少なくなり、支援者との信頼関係が育っていったと考えられる程、怒りの行動が減っていった。家庭内でも安定し、婦人科受診への後押しとなった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑦ ⑨

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-66. **委員会ポイントカテゴリー ② ④ ⑤**

日中活動は、塗り絵を好むOさん。しかし、塗り絵の認識が難しく、イラスト全てを一色で塗り潰してしまったり、色鉛筆を握ったまま塗り始めることができないでいる。そこで、支援者がイラストを縁取りする。わかりやすいように塗る箇所以外は紙で覆い見えなくして、余分な情報を取り除くことで色鮮やかな配色の塗り絵を最後まで完成することができた。できあがった作品をOさんに見せると「できたよ」と満足な表情が見られた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・視覚的効果を活用することで、見通しがつき最後まで作品を完成することができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ④

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-67. **委員会ポイントカテゴリー ① ④ ⑧**

サークル活動の活動内容を実際の物を掲示し、絵描きやパズル、読書等、職員が活動しているのを見て頂いた上で、選択して頂いた。その為、視覚的にも分かり易く、興味を示した活動に分かれて各自が楽しむことができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・視覚的に分かり易い活動内容の提供。
- ・事前に興味を示した物を用意する事で、スムーズな選択に繋がった。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑧ ⑥ ③

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-68. **委員会ポイントカテゴリー ② ④ ⑤**

大根の収穫が大好きなTさんだが、大根を折ってしまう事が多い為、除草作業をお願いした所、職員に気付かれないように抜いた大根を戻す行為が見られるようになった。除草ではなく、大根洗いの仕事をお願いすると喜んで取り組んでおり、大根に関わる仕事が本人の希望だった事が分かった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人の行動に隠された思いを考察できた。
- ・本人の関心のある活動の提供。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥ ②

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-69. **委員会ポイントカテゴリー ② ④ ⑧**

白髪が目立つようになり毛染めを行ってきた M さん。髪の毛の痛みや脱毛から、通院をしていた経緯があった。きつく髪を結う事も良くないと医師から指摘もあった。脱毛が軽くなり、M さんも「髪を染めたい」という希望は継続してあったので、染めるには脱毛がおさまってから、またその原因となった髪を結ばない事が必要であると話し合った。以前、ショー丈の長さの時もあり、担当職員がヘアカタログなどを提供し、本人と話し合いを重ねた。脱毛もおさまり、また M さんも頭皮へのダメージが少ないショートヘアを希望し、本人の納得した髪型にし、毛染めをすることができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・「髪を染めたい」という希望を、本人と担当職員が話し合う事で実現できた。
- ・本人の髪の状況も考えて、本人の納得する方法をとる事が出来た。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-70. **委員会ポイントカテゴリー ② ④ ⑧**

利用者支援の一環として軽作業を提供している。数種類の軽作業があるが、どの作業にも取り組もうとしなかった。そこで、新たな作業を含め数種類の作業を利用者本人に提示したところ、指を差したり体で表現したり意思を確認することができ、その後は前向きに取り組むようになってきている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・選択肢を提示することにより、利用者本人の意思を確認することができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-71. **委員会ポイントカテゴリー ① ② ⑦**

昼食後の口腔ケアが苦手な利用者に対して少しずつ介入している。時計を導入し、時計を見ながら口腔ケアを実施したことで、苦手な口腔ケアができるようになり、コミュニケーションも図れるようになった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・時計を見ながら行うことで、時間を決めて口腔ケアを行うことで、安心してしっかりと口腔ケアを行うことができるようになった。

事業所判断ポイントカテゴリー ②

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-7 2. **委員会ポイントカテゴリー ③ ④ ⑧**

自閉症 20代男性 Tさん

昼食をテイクアウトし園で食べる行事があり、飲み物も数種類から各個人希望をとって注文することとなった。その際本人は「ゆずれもん」という清涼飲料水を選ぶ。他に「ゆずれもんサイダー」があり、本人は炭酸飲料が好きのためどのような飲み物か説明をして「ゆずれもんサイダー」を勧めてみるが本人は「ゆずれもん」と言っていた。その旨送迎に来た母親に相談すると「『ゆずれもん』のパッケージにはゆずとレモンのイラストがあり、それに惹かれて決めているのではないか？」との話があった。翌日「ゆずれもん」のパッケージを二つ並べ「ビリビリあり」「ビリビリなし」(本人は炭酸をビリビリと表現する)と記載し本人に選択してもらうと「Tくんビリビリ！」と言って「ゆずれもんサイダー」を選択。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・家族に相談したことで、イラストで決めていたことが分かった。
- ・本人が使っている「ビリビリ」と言う言葉を用いて本人がイメージしやすい選択肢の提示ができた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-7 3. **委員会ポイントカテゴリー ④ ⑤ ⑧**

彼岸花作りの作業を行っている Sさん。新しい作業(竹の先端をカッターで削る作業)を提案すると「やってみる」との事。カッターを今まで使用した事がなく利き手が左であったため左利きの支援員に削り方を習う。その後「楽しいの」と嬉しそうに削った竹を見せてくれる。上手に出来ていた為その事を伝えると喜んでいた。今までの作業は手を止めて休んでいる事が多かったが削りの作業を始めてからは手を止めることなく意欲的に作業を行っている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

何十年も通っている方であるが今まで竹串削りの作業の提供をしたことがなかった。手先が器用でありずっと行っている作業に対して飽きている場面が見られたため新しい作業を提供することによって作業に対する気持ちもリフレッシュできるのではないかと考えた。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ④ ⑤ ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-74. **委員会ポイントカテゴリ ① ④ ⑨**

レクリエーションでドライブに出かけた時、利用者Sさんに道の駅で食べたいアイスを探ねると、ごまアイスを指さす。自分で選んでも食べられない場合もあるため、チョコアイスをお勧めすると頷かれたため、チョコアイスを提供、完食された。後日、母親にゴマアイスを選ばれたけれど、食べるのか聞くと食べませんという答えが帰ってきた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・施設利用時の嗜好を観察している。

事業所判断ポイントカテゴリ ⑤

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-75. **委員会ポイントカテゴリ ① ② ⑦**

(全盲・知的障害のMさん)

毎日の散歩の際、「～のおもちゃがほしい。」と言っていた中の一つに【お医者さんのおもちゃ】が入っていた。誕生日月にプレゼントを選択購入している。Mさんが欲しがっていた【お医者さんのおもちゃ】が売っていた為、Mさんに声掛けし、触ってもらうと笑顔を見せた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・普段のMさんに対して、傾聴を声掛け接していたことで、支援に繋がった。

事業所判断ポイントカテゴリ ② ③ ④ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-76. **委員会ポイントカテゴリ ④ ⑤ ⑦**

毎日の課題の中にパズルを取り入れた所、台紙側に絵がなく、無地な為、型だけでは認識が難しかったAさん。職員が型側をカラーコピーして台紙側に貼った所、スムーズにパズルを行うことができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・出来ない理由は何かを考え、Aさんの立場になって考えた。

事業所判断ポイントカテゴリ ② ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-77. **委員会ポイントカテゴリー ③ ④ ⑦**

口頭での意思伝達が難しい方について、本人が何を欲しいのか聞き取る際、2つの選択肢より選んで頂いていました。写真やイラストを用い、5つの選択肢の中から選んでいただくよう変えたことで、本人の希望の物を提供することができるようになりました。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 選択肢の幅が増えた
- ・ 写真やイラストを用いたことでより本人の希望する物を提供できた。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑥ ⑦ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-78. **委員会ポイントカテゴリー ① ④ ⑧**

入浴の有り・無しを口頭で伝えていましたが、言葉の意味がわからない方について、お風呂のイラストを使い、○・×をつけ提示しました。「お風呂あるのか？」と聞いてくることがなくなり、理解していただけました。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 言葉の理解が難しい方についてイラストを使ったことで理解していただけた。
- ・ 朝の段階でイラストを提示することで落ち着いて過ごすことができるようになりました。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-79. **委員会ポイントカテゴリー ③⑥**

ジュースが飲みたい、いつ飲めるのと要求するAさん。毎週水・土・日と決まってはいるが、カレンダー理解、時間の経過の理解が難しいため、常に職員に質問していた。本人さんに分かりやすいよう、ジュース提供を毎日、昼食後と決めて行うことにした。次第にその時間にジュースが飲めることを理解し、そのことへの質問が少なくなった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・ 飲みたいという気持ちを考慮した。
- ・ 毎日同じ時間に提供してもらうことが保証されていると分かって、安心感につながったのではないかな。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-80. **委員会ポイントカテゴリー ①④⑧**

こちらの問いかけに理解はあるが、言葉を発しないAさん。着替えの時間になり、声をかけるが動こうとしない。理由を考え、昼に提供するはずのジュースをまだ飲んでいないことが原因なのかなと考え、職員が両手を出して「お昼のジュースは飲みましたか？」と尋ね、右手が「はい」、左手が「いいえ」と提示すると左手をタッチした。

着替えが終わったら飲みましょうと話すとすんなりと着替えをするために移動してくれました。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・飲みたいという気持ちを考慮した。
- ・毎日同じ時間に提供してもらうことが保証されていると分かって、安心感につながったのではないかな。

事業所判断ポイントカテゴリー ① ③ ④ ⑦ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-81. **委員会ポイントカテゴリー ③⑥⑧**

クッキー作業に取り組んでいたAさんだったが、パンの成形時間が重なってしまった。Aさんがいつも取り組んでいるパン(カスタード)を成形するのと、このままクッキーの作業を続けるのとどちらが良いか尋ねた所「このままやっています」とのこと。職員が「ではAさんの代わりに別な人がパンやりますからね」と伝えると「はいー」と返事をされた。Aさんはクッキー作業が終わると報告に来てくれた。表情が生き生きとしており、次の作業指示への反応や取り組みも良かった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・普段の様子からもクッキー作業を好むことが分かっていたので、本人に作業を選んでもらえるような声掛けができた。

本人が生き生きと作業に取り組む姿を周囲も温かく見守っている為、本人の代わりにパン作業を行う環境があった。

事業所判断ポイントカテゴリー ② ③ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-8 2. **委員会ポイントカテゴリー ⑤⑧**

Bさんは入所当時、苦手な食べ物は少なかったが「かぼちゃが嫌い」との事で、あまり好んで食べる事はなかった。しかし「無理せずに食べてみて、おいしくなかったら処分してください」と長期的に伝えていると、皆と一緒に給食を食べるということもあり残さず食べられるようになった。調理法によっては（ポターージュのように原形が分かりにくいものであれば）おかわりする事も何度かあった。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・苦手な食材だからと提供しないのではなく、提供し続け 食べる機会があったため、食べられるようになった。
- ・周りからの声掛けに耳を傾けたり、考え方が柔軟な方だった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑤ ⑧ ⑩

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-8 3. **委員会ポイントカテゴリー ③⑥⑧**

Aさん（女性、知的障害）

朝、通所した後に事業所内でコーヒーを飲むことを希望していたが、服用している薬とカフェインの飲み合わせが良くないため、コーヒーを飲むのは週に2回までと保護者より要望があった。そのため、ご本人にも事情を説明し1週間に2回分のコーヒーチケットを手渡しして回数を制限する支援をしていた。しかし、ご本人はコーヒーが飲めなくて不穏（不機嫌、泣く等）になることが度々みられていた。そのため、ご本人の気持ちに寄り添い支援内容を検討して、「カフェインレスコーヒー」を提供してみることにした。保護者にも丁寧に安全性を説明し理解を得ることができた。毎朝通所し希望したコーヒーを飲んでゆっくりくつろぐAさんの姿は、とても嬉しそうです。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・一度行った支援を振り返り、ご本人の気持ちに寄り添った支援に見直すことができた。
- ・ご本人の希望を実現できるように、安全性を工夫したり家族にも理解して頂けるように説明した。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑥ ⑤ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-84. **委員会ポイントカテゴリー ③⑤⑦**

Bさん（女性、知的障害、身体障害）

発語はないが、表情や声のトーン、質問に対して相手の手をタッチするなどして意思表示をされるBさん。新年度の作業班体制を決める際、各班の作業道具の写真や用具をみて希望を伺うと、全ての班に対して手をタッチして気持ちを表して下さった。そこで、約2週間をかけて実際に各作業班をまわり、作業体験をして頂いた。体験を通してBさんの希望する班が2つ3つと絞られ、最終的には1つの班のみに手をタッチしたり声を出して笑ったりするようになった。その後も決定した班の話の話を本人にすると笑顔が日々みられた。Bさんは車椅子を使用しており、本人が横になって過ごしたい時は、カーペットのある違う班でくつろいだりして、現在元気に過ごしている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・各班をまわり実際に作業体験をしてもらうことで、ご本人の希望や意思が明確になった。
- ・手のタッチだけでなく、表情等からもご本人の意思を汲み取ることができた。
- ・ご本人の意思、希望に応じて支援者が柔軟に対応できた。
- ・新作業班になった場合の、くつろぐ場所を考慮できた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑤ ④ ② ③ ①

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-85. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

歯磨きを長い時間行うSさん。うがいの促しにも反応せずに磨き続けている。自分が納得するまで行う方なのだと思い、しばらく様子を見たが、改善されなかった。母親に自宅の様子を確認したところ、歯ブラシを取って終わりにするとのことだった。事業所では、本人の意思を否定するようなことにつながるのではないかと考えたため、別の支援方法がないか何度か母親に相談していた。うがいを促すときに「ごぼごぼペー」と伝えるとのお話が聞かれたため、「うがいをしてください」との声かけから「ごぼごぼペーしてください」と声かけ方法を変更するとスムーズに切り替えることができた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・日常、なじみのある言葉で伝える事の大切さ、家族からの情報聞き取り、インフォーマルアセスメントの重要性

事業所判断ポイントカテゴリー ⑤ ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-86. **委員会ポイントカテゴリ ②⑥⑧**

Aさんは余暇時間に、手持ち無沙汰になると他利用者さんの後をついて回ったり、室内をかけ回る等の行動が見られている。余暇活動の書いてある複数枚のカードから余暇を選んでもらうが「やらない」と拒否を示していた。(普段は本人が持参している雑誌を選んでもらっている。)そのため、「施設の雑誌を読んでみる？」とお誘いして何冊か雑誌を見せてみると、すぐに食いいるように集中して読んでいた。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人用の雑誌があったため、それを提示しなければという固定観念があったが、様々な選択肢を用意することで、本人がその時の興味をそそる活動が提供できた

事業所判断ポイントカテゴリ ⑧ ② ⑥

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-87. **委員会ポイントカテゴリ ⑤**

施設内レクリエーションでミニ運動会を行なった。普段参加が難しいことが多いAさん(30代女性・強度行動障がい)が、前の人があるのを見てから行なったためか、運動会の雰囲気が理解しやすかったのか(運動会の音楽をかけて紅白帽を職員が被っていた)Aさんは参加することが出来た。そのまま借り物競争で別の階へ降りて移動することもできた。(普段は移動を嫌がられることが多かった)

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・直前に他の人がやるのを見てから参加した。
- ・雰囲気づくりをし、職員も一緒に行なった。

事業所判断ポイントカテゴリ ⑤ ⑥ ⑦

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-88. **委員会ポイントカテゴリ ①③⑧**

週末の半日活動について利用者へイラストを使用し事前に希望を聞いている。今年度から「お休み」のイラストを追加しBさん(30代女性・重度心身障がい)に聞くと「お休み」を選ばれた。そのことを保護者へ伝えると「本人が希望しているなら」と当日欠席された。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

- ・本人の選択を保護者や職員が意思実現のために動いていた。
- ・選択肢に「お休み」を取り入れた。

事業所判断ポイントカテゴリ ① ② ③ ⑥ ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-89. **委員会ポイントカテゴリー ⑧**

Nさんがペットボトルにテープを付ける創作活動している時に、テープ等の材料を提示して選択をいただいている。ご本人は、その時の好む材料を使って、創作活動をしていらっしゃる。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

事業所判断ポイントカテゴリー ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-90. **委員会ポイントカテゴリー ⑧**

活動を決める際に、ご自身で選択できる方は、朝来所されてからご自身で活動を選択して参加したい活動に参加していらっしゃる。意欲的に活動されている。

【配慮出来たポイント及び考察 等】

事業所判断ポイントカテゴリー ⑧

【本人の意思決定支援が出来た実例・成功実例】

A-91. **委員会ポイントカテゴリー ③⑤⑥**

・発達障害のAさん。スーパーで就労中。

1日4.5時間の短時間勤務で働いていたが、本人は7時間勤務への変更を希望していた。店側も本人の希望は分かっていたが、不安定になることが度々あることや、時間を延長すれば益々不安定になるのではと心配され、なかなか希望は通らなかった。月に1度の定着支援の他、不安になった時は都度電話での相談を重ねることで、不安になる原因を見つけたり、本人の自己肯定感を高めることで、1年間大きく崩れることなく働くことができた。本人の頑張りを店側に伝え、改めて就労時間延長をお願いしたところ、店側が延長を認めてくれた。人との関りや疲れから不安になることはあるが、以前とは違ってすぐに切り替えができたり、何より仕事に生きがいを持っているようだ。

【配慮できたポイント及び考察 等】

- ・本人の目標に対して、本人も支援者も諦めなかったこと。
- ・本人が不安になった時、支援者の対応にブレが無かったこと。

事業所判断ポイントカテゴリー ③ ⑤ ⑥

本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例における 意思決定支援実例のカテゴリー分け要素

本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例につきましては、成功実例で分けた10の要素（以下カテゴリー）の反対と捉えマイナス（-）記号の表記で掲載しております。

なお、⑨の「家族や職員、周囲の人の都合が優先された。」につきましては、本人主体ではない意思決定の実例に該当するカテゴリーですので、マイナス記号の表記ではなく⑨の表記にしています。⑩の「その他」につきましては、本人の意思決定に依らないもの、行動障害、こだわり、医療的ケアが必要な場面等としました。

また、各実例のカテゴリー掲載順位につきましては、成功実例同様、要素が強い順列でお願いいたします。また、重要で特徴あるポイント部分には下線をお願いいたします。

なお、作成につきましては昨年配布致しました実例集「私の事はあたりまえに自分で決めたい。手伝ってね ver.6」をご参照下さい。

- ①本人とのコミュニケーションを取るための道具使用していない。
- ②本人の表情の変化を観察して、意思を確認していない。
- ③本人の意思決定表出を受けて、実現していない。
- ④意思形成支援・意思表出支援をしてない。
- ⑤言葉だけでなく、実体験、経験、実践後に決めていない。
- ⑥意思決定を周囲で尊重できる人的・物理的環境が無く、実現していない。
- ⑦本人の意思決定を「待つ」体制がない。（繰り返し、根気よく）
- ⑧選択肢としての情報提供により実現ができていない。
- ⑨家族や職員、周囲の人の都合が優先された。
- ⑩その他

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-1. **委員会ポイントカテゴリ -② -③ -⑥**

新しく採用された世話人と A 利用者はお互いに関係性が上手く築けず、世話人に対し不満を抱えながら生活を送っていた。利用者本人の不調が続きイライラが溜まっていたところに、苦手な世話人から注意を受けた事で感情が爆発し世話人に暴力を振るってしまった。関係性を改善する支援や対応を怠ってしまった事で、本人が暴力という手段をとるに至ってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・利用者とは話をしている時間は設けていたが、本人の思いを傾聴する事が不十分だった。
- ・世話人に対するスーパービジョンを充分に行わず、様子を見てしまった。

事業所判断ポイントカテゴリ -① -③ -⑥

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-2. **委員会ポイントカテゴリ -① ⑨**

食事サービス会議(月2回、利用者と支援職員、厨房職員とで食べたいメニューを聞き取る会議)で利用者 D さんに「黒くて四角の物が食べたい」と言われた。職員と検討し、それと思われる商品(昆布)を購入してきたところ、本人は喜んでいたので食事の際に提供する事になった。一方で D さんは食事の好き嫌が多く歯も無かった為、普段から食事をはさみで刻んだり、噛みきれない食事がある時は、柔らかい食事で代替えして提供していたが、食事が食べられないと捨ててしまう事もあった。一度昆布の佃煮を提供したところ、他の食事を食べずに昆布だけ食べたりする事があった。又、他の職員に伝わっていなかった事もあり、食事の確認が出来ないうちに、昆布だけ提供する事があった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人が希望した商品を提供する事には成功したが、食事の栄養的に偏りが見られてしまい、栄養士との話し合いを行う事が必要だった。
- ・食事に関して、入所施設では栄養士がバランスを考え献立を提供しており、提供された食事を利用者が食べているか食事量の確認などを行っている。今回の事例は、本人が食べたい物を提供出来るように意思を確認して提供したが、食事の場面において、好きな物だけ食べてしまっている事に対してどのように対応していけばいいのか決めていなかった。本人の好きな物を食べたい気持ちと、食べられない食事に対して本人の気持ちや意思を確認する事が必要だった。

事業所判断ポイントカテゴリ ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-3. **委員会ポイントカテゴリー -⑦ ⑨**

利用者のCさんは、衣類にこだわる事が多く季節に関係なく、好きな服を着たがる事があった。その為、職員で本人の好みの衣類を用意し、Cさんにも自分で確認してもらい着てもらえる事が出来た。ただそれ以降、その気に入った3パターンの服以外の衣類を購入してきても着なくなってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・パターンを作った事で、こだわりになってしまった。施設では、いつも入浴前に職員が衣類を準備していて、他の衣類を本人選ぶタイミングが作れていなかったの、着替えを選ぶ際に本人と一緒に確認する時間を設けた方がいいのではないかな。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑦ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4. **委員会ポイントカテゴリー -③ ⑨**

Nさんは時々、帰りの送迎で降りられず（利用を始めて4年間は何もなかった）事業所に戻り、母親の迎いで帰宅する事が何度か続いた。母からは「降車出来ない時、次の日はお休みします」と話があった。

本人に「ドライブしながら帰りますか？」と聴くと笑顔で「はい」と返答があった。ドライブを兼ねての送迎は上手く行ったが、日によって通常ルートの送迎となり降りる事が出来ない日がある。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の思いが十分理解出来ていない。
- ・変化の原因が掴めていない。
- ・ドライブが出来ない日の事を考慮していなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-5. **委員会ポイントカテゴリー -① -② -④**

Hさんが活動中「職員と関わりを持ちたいが持てない」時に、他利用者の耳たぶを触りに行ってしまう事がある。「Tさんが嫌がっています。手を放してください」と言っても収まらなかった。その際、不穏になってしまい職員に固執してしまう事があった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・Hさんが何を求めているか知る。
- ・利用者間での関係を良好にする。
- ・周りの利用者に影響が出ないように配慮する。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -④ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-6. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

今までは、リビングでテーブルを囲んで食事を楽しむ事が出来ていた。新型コロナウイルスの感染予防として、自室で食事を摂るように環境が変化してしまった。65歳のAさんは、ADLの低下または嚥下機能の低下が著しく見られるようになった。自室で食事を召し上がっている際に、蒸せってしまい病院へ急遽通院をすることになり、レントゲン検査等受けるようになった。幸い誤嚥性肺炎等の症状もなく無事にグループホームへ戻って来ている。今後も同様なケースが増えていく事を懸念して、食事の場所を再度リビングへ戻すように提案して食事の様子を見守るように対応をしている。本人も年齢と共に、生じてくる体の変化に戸惑いを感じて落ち込んでしまう事がある。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・食事の様子で、食べる姿勢が悪くなる為、姿勢を整える声かけや確認が不十分であった。
- ・自室で食事を摂る事で、声掛けのタイミングが合わなかった。
- ・高齢化に伴った介護分野のスキルが職員間でも知識不足でもある。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-7. **委員会ポイントカテゴリー -③ -⑥**

Aさん（聴覚障がいあり）が県外で一人暮らしをしたいと要望を筆談で受けている。新型コロナウイルスの感染拡大で物件の見学等の動きをしたいとのことだが、感染拡大のため本人の意思確認をするものの動けていない。

感染状況に応じた対応となるが、筆談の内容でも言葉のやり取りがうまくいかず不穏になることがあった。手話通訳士を依頼して、言葉の理解へ繋げている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・新型コロナウイルスの感染が拡大して、対応が難しかった。
- ・筆談する内容を分かり易くする為の関係性が必要と思われる。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑥

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-8. **委員会ポイントカテゴリー ⑨**

Kさんはその日の朝、下剤を服用していた。午後から本人が楽しみにしているドライブが予想されていたが、「行きたくない」と言う。職員は下剤を服用していたのが心配なのだろうと察し「大丈夫ですよ。心配しないで」と声をかけた。「それなら…」とKさんはドライブに参加する。ドライブ中、Kさんは催してしまうが、職員は想定内の事だったので気にしなかった。しかし本人は「ごめんね」と申し訳なさそうに何度も謝っていた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・楽しみにしていたドライブに連れ出されたく、Kさんの初めの気持ちを汲み取ることが出来なかった。
- ・別日に変更すれば良かった。
- ・職員は何とも思わない事でも、Kさんに見れば羞恥心を感じていた。

事業所判断ポイントカテゴリー -④ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-9. **委員会ポイントカテゴリー -② -④ ⑨**

窓の外の虫やゴミを気にしたり異食したり、夜間気にして起きてくるBさんの為に、外の窓を見えなくした。又、居室にパーティションを付けた。これらが原因か断定は出来ないが、一時的に衣類に対する拘りが増えたり、居室にいられず廊下に出てくる、食事の進みが悪くなる等が、見られている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・環境の変化に弱い敏感な方である事を重く受け止め、もう少し慎重に少しずつ環境を整えるべきであった。

事業所判断ポイントカテゴリー -④ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-10. **委員会ポイントカテゴリー -① -② -④**

不穏状態になると暴言や要求が多くなるA様、昼夜関係なく食べ物の要求が多くなり、その度に提供していたが、要求はエスカレートし落ち着く事には繋がらず、集団生活が困難になり入院となった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の要求を聞きながら、約束を決めながらの対応が必要だった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -④

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-1 1. **委員会ポイントカテゴリー -② -④**

知的障害と精神障害があり、グループホームで暮らし生活介護事業所に通所している A さん。
グループホームが好きなので、ここで暮らしていきたいと話しているが、思い通りにならない事があると怒って粗暴行為に至る事が頻繁にある。A さんの思いに沿うよう支援しているが、全てが A さんの思い通りになるわけではなく、グループホームで暮らす為には最低限のルールは守らなければならない事について都度 A さんと話し合っている。その時は了解するが、またすぐルールを破り、怒って粗暴行為を行う事を繰り返している事で同居者が不安を感じるようになり、グループホームで暮らしたいという A さんの意思に沿った支援が難しくなっている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ A さんと都度話し合っているが、本当の気持ちが確認できず意思に沿った支援ができていない。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-1 2. **委員会ポイントカテゴリー -③ -⑧ ⑨**

K さん 70代 男性 知的障害中程度

グループホームで生活する K さん。若い頃から気難しく、こちらの提案を受け入れてくれない事も多くマイペースに生活している。何か購入する時も新しい物への拒否感が見られたり、了承してもその時の気分で変わってしまい対応困難な事が多い。

数年前、身に着けているヘッドギアが古くなり、新しい物の購入を声掛けするも「要らない」「まだ使える」と毎回、拒否の返事あり。2年程声掛けしているが同じ返答である。現物を見れば興味を示すかもしれないと業者へ相談し、見本を取り寄せして本人に確認してもらうが「要らない」の一点張りであった。兄との旅行を楽しみにしており、この機会に新調するよう声掛けするも「どうせ今は旅行行けないだろう」と少し寂しそうに返答し拒否が続く。

今後の対応として、同じ物を作れるか業者に確認すること、ヘッドギアを新調して旅行に行けるようになったら楽しんでもらう事、何よりヘッドギアは本人の命を守る事を声掛けして提供実現に繋げていきたい。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ ヘッドギアの重要性を理解して購入出来るよう工夫しているが、本人に納得してもらえないまでに至っていない。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-13. **委員会ポイントカテゴリ ⑩**

自閉症の M さん（30 代）は、ゴルフ中継やお宝番組を観るのが休日の楽しみである。ダイルールのテレビにレコーダーが設置されたので、何度でも楽しめるように M さんの好きな番組等を録画した。また、平日、M さんは事務所への出入りをする事があり、その際引き留める対応にも活用出来ると考えた。最初は録画一覧から希望の番組を指さして選んで鑑賞する事が出来、居住区で過ごすきっかけにも繋がっていた。しかし、次第に録画が増えて来ると、どの番組を見たいか迷う様子が見られるようになった。ある時、自分で選ぶも選びきれず、何度も職員にリモコンを渡し、“レコーダー”と訴える事があり、結局選ぶ事が難しかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ 選択肢が多く、本人を混乱させてしまった。

事業所判断ポイントカテゴリ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-14. **委員会ポイントカテゴリ -③ ⑨**

最近、認知症のような症状が見られる N さん。普段は適温の室内で過ごしている。ある時、「寒いから上着をくれ」と言っていたが、暖房もついており 長袖を数枚着用していた為、上着は必要ないと判断してしまった。その後、「こんなに寒いのに」と他職員に話をしていた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ 室温が適温で衣類も十分に着用していた為、職員は必要ないと判断してしまった。

事業所判断ポイントカテゴリ -③ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-15. **委員会ポイントカテゴリ -① -②**

A 様のジュースを購入する時に「コーラ」と話され購入した。しかし、A 様からは、これでは無いと拒否される。A 様に詳しく話を聞くと「コーラ」ではなく「マウンテンデュー」であった。（A 様の中では「マウンテンデュー」という認識）

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ A 様の認識を支援員が把握出来ていなかった。

事業所判断ポイントカテゴリ -① ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-16. **委員会ポイントカテゴリー -③ ⑨**

利用者 A さんの保護者（妹）より「姉夫婦が、なんだか兄が痩せてしまって心配だって言うんです。寮（ホームの事）ではご飯は弁当なんですよね？兄もご飯のお替りをさせてもらえないって言うてるし、病気でもあるならともかく、痩せすぎなのは私（妹）も心配なんですよね。」との話があった。その為、グループホームに入居してから現在までの体重の変化を全て報告し、最大時が 58 キロ、最小時が 53.5 キロ、平均すると 55 キロから 56 キロの間で増減を繰り返しており、ほぼ変化はない事を伝えたが、「悪気があるって言うているのではないんです。ただ、痩せすぎが気になるから。」との事。この話を受け、食事は弁当ではなく食材の配食サービスを利用しており世話人の手作りメニューである事、その時々で補食（追加食材）等も取り入れている事、ご飯の量は全ホームの中で最も多い分量（5人で3.5合）を食べている事を伝えた。それでも「体重の変化はないって言うてもね…あれは痩せ過ぎだと思いませんか…兄だけ別に食事を追加で食べるとか、そういう事は無理なんですか？せめて、ご飯をお替りさせるとか。」との相談があったが、食費はグループホームの入居者 5 人で按分しており、一人だけ多く喫食する事は難しい事を説明した。多く食べる場合は、別途自費で食材等を購入する事になるが、以前、ホームでの小遣いの額面を相談した際に 10,000 円では多いと話があったので、追加食材を購入する場合は小遣いで賄いきれないので、支出金額が増える事になるが大丈夫かどうか確認すると「お金は使ってもらっていいです。兄が食べたい物を聞いてもらって、買ってもらえるならそうしてください。出来れば“サトウのご飯”みたいなのと、ふりかけなんか揃えてもらえると助かります。」との返事であった。電話でのやり取りの内容を管理者、事業部長に報告し今後の対応について検討した。別途食事を用意する事は現実的に困難であると思われるので、まずは補食として栄養補助食品等から始めてみてはどうかとの事で話はまとまった。本人にもこの件を確認したが、自宅帰省した際に妹とご飯のお替りの話や弁当の話はしていないとの返事であった。また、食事の量については満足しているとの言葉が聞かれていた。電話を受けた翌日、栄養補助食品としてカロリーメイト、チョコレートパイ、カスタードパイを購入してホームに届けた。本人にも事情を説明して、夕方のお茶会時に通常食べている嗜好品（お菓子やジュース等）の他にカロリーメイト 1 包（2本入り）、パイ 1 個（チョコかカスタードの好きな方）を補食として食べてもらい体重増加に繋げていこうという事になった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ この件について本人は家族と話をしていない。
- ・ グループホーム入居以降の体重の推移を報告したが取り合ってもらえなかった。
- ・ 相談内容が本人の意思とは無関係に、保護者の意見のみで貫徹している。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-17. **委員会ポイントカテゴリー -② -④ -⑧**

余暇時間に大好きなパズルを楽しんでいる C さん。200 ピース程度を何枚か完成させ自信もついたようで、もっと難しいパズルの希望があり 300 ピースを購入した。しかし難しかった様で途中で断念し、職員に作成を依頼。職員が完成させたことが原因か「パズルはもうやらない」と返答あり。その後もやらなくなってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・手伝う姿勢を示し、一緒に行くべきであった。
- ・ある程度手伝っても最後の方は本人にやってもらい、完成の喜びや自信を育てるべきであった。
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-18. **委員会ポイントカテゴリー -③ ⑨**

毎日 就寝までの時間に職員と会話を楽しみながらエプロンをたたんでいる D さん。この日はエプロンたたみを忘れていたのか就寝準備を始めていたので、その間に職員がエプロンをたたみ片づけた。

その後、エプロンたたみをしていない事に気付いた D さんが泣き出してしまい、片付けた事を一緒に確認したが納得していない様子であった。

再度一緒にエプロンたたみの時間を設けるべきだったと後から思った。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・D さんが好んで行っている事、やりたい気持ちを理解することができなかった

事業所判断ポイントカテゴリー -③

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-19. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑧**

利用者 B さんは、一般就労していて、生活面はほぼ自立している。人間関係で少しでも嫌なことがあると誰とも話をせず、部屋に閉じこもってしまう。

グループホームを出て、異性と一緒に暮らしたいという希望を持っていたため、関係者をまじえて話し合いを持ち、本人の意向を尊重することとなった。グループホームを出て、1ヶ月が経過した頃に、相談員から事業所に電話が入り、職場での無断欠勤が続いていて、連絡を取りたいが取れないとのことだった。事業所から連絡しても連絡が取れず、何とか一緒に暮らしている相手に連絡を取ることができ、安否を確認し、就労先と話し合いも設定することが出来た。結果、仕事を退職し、別な仕事を探すこととなった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・グループホームを出た後のサポートが、連絡もつかず困難だった。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑤ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-20. **委員会ポイントカテゴリー -① -④ ⑨**

野菜が苦手な食事にかかる A さん。事前に小皿を準備し嫌いなものを除去することでスムーズに摂取できていた。いつものように、食べないであろうもやしを事前に除去した。食事が始まると、小皿に除去したもやしを戻し食べ始める。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・調理の仕方でも調理方法により食べることができたが、普段の様子から食べないであろうと除去してしまった。
- ・食材のみで判断してしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー -④ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-21. **委員会ポイントカテゴリー -② -④ -⑦**

食事のメニュー数種類の中から選べるイベントを行った際に、実際の料理の写真見てもらい選んでもらおうとしたが、発語もなく指差し等のリアクションもなかったので、好きそうなものを職員のイメージで選んでしまった。

その結果、拒否が見られ食べることができなかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・普段の食事の様子を観察し、もっと本人の嗜好を理解していなければならなかった。
- ・嗜好の認識が不十分で偏りがあった。
- ・本人が選択するための意思確認ができなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑦

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-2 2. **委員会ポイントカテゴリー -① -③ -⑥**

自分のノートに翌日の勤務職員を記入するのが日課となっていたWさん。骨折しベッドで安静にすることとなったのを機に、職員がノートに記入することとなった。安静にする期間が終了し歩行器を使用しての移動にはなったが、手は使えるため以前のように自分でノートに記入してはどうかと提案するが嫌がっており、自分では記入しようとしなない。しかし、ノートへの拘りがあり翌日の勤務職員は知りたいようで、職員に記入を求める。今でも職員が記入し続けているが、その時々によって勤務職員以外のこと（行事予定や誕生者等）の記入を求め、書き加え等要求がエスカレートするようになった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・骨折完治後、本人の残存機能の維持を図るためと思っていたが、それは職員の思い込みで本人の希望や思いをうまく汲み取れていなかった。
- ・ノートに記入する内容について本人と話し合い、決めていなかったため職員の対応に差が生じ、本人の不安な思いが募ってしまった。
- ・文字以外にも絵や写真を用いて分かりやすく伝える等工夫しても良かった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑥

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-2 3. **委員会ポイントカテゴリー -① -② -⑤**

自閉症であり意思の表出が難しい方であるが、日頃から「パン。パン。」との話しがあり、飽きが来ないような色々な味のパンを定期的に購入し、午後の決まった時間に渡していたが、表情に変化がなかった。職員間で話し合い、「パン。」との表現はジュースやお菓子類全般を差しているのではないかとの結論に至り、施設内でのお菓子の移動売店や注文での商品購入の際にはパンのみならず、本人が好むジュースやお菓子も購入し提供していく事を決めた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・家族より持参されるおやつの中にはパンもあり、日頃から「パン。パン。」と話しているため、パンが好きなのだろうという先入観があった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-24. **委員会ポイントカテゴリー -① -④**

紙を破ることを好み、他の方の本類や塗り絵等も破ってしまうHさん。紙を破きたい要求に応えるため、カレンダー制作貼り絵に取り組んでもらうことで色紙をちぎっていただいた。自分のペースで紙の感触や破った際の音を感じながら取り組んでいた。他にチラシや新聞、段ボールを自由に破って頂き、衝動を発散できる場を提供した。しかし、その後も他の方の私物の本を破る行為が収まらず、ご本人の要求に十分に答えることが出来ない状況である。言葉では伝えられない想いが「紙を破る」行為となって表出していると思われるため、支援を工夫しながらご本人にとってより良い環境を整えるべく支援を継続中である。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ 普段の生活において楽しみながら取り組める活動の幅を広げることが出来なかった。
- ・ 言葉で現在抱えている想いを伝えることが難しい方であった為、表情や行動から想いを察知し、支援に繋げる事が困難であった。
- ・ 紙を破る行為に特化した支援に取り組むことは出来たが、ご本人の望んでいる想いの本質に基づいた支援が不十分であった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -② -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-25. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

- ・ 帳簿を自分で記入管理したKHさん
- ・ 1ヶ月ごとに帳簿記入表とレシートを貼る紙を本人に提供
- ・ 帳簿の記入と現金の合わせは間違えることはないが、レシートを貼る順番が分からなることがあり、不安になることがあった。
- ・ 商品の返品等があった場合の記入等が分からなくなり、不安になることがあった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ 返品などイレギュラーがあった際に混乱する事。
- ・ レシートを貼る場所が分からなくなる事。貼る場所の指定も視覚的に分かる支援が必要と考える。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-26. **委員会ポイントカテゴリー** -④ -⑧ ⑨

一日外出で、利用者Aさんと利用者Bさん、職員Cと職員Dの計4名でイオンモールに外出した時のこと。その日は、Aさんは職員Cと買い物を予定し、Bさんは職員Dと映画鑑賞を予定していた。事前にAさんには、Aさんだけの予定をお伝えしており、Bさんの予定は特に伝えていなかった。当日、イオンモールに到着後、Aさんは職員Cと買い物すること、Bさんは職員Dと映画鑑賞する為、別行動になることを伝えると、Aさんは職員Dと一緒に買い物に行きたいと店内で泣き出してしまった。しばらく話をしても納得出来ず、結局、Aさんは職員Dと買い物することになった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・利用者Aさんは外出するまで職員Cと買い物とすと言っていた。しかし、職員Dが利用者Bさんと別行動になることは伝えていなかった。
- ・前もって具体的なスケジュールを伝えておらず、利用者Aさんが思っていた事と違うことが起きた為不安にさせてしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-27. **委員会ポイントカテゴリー** -③ ⑨

土曜日の生活点検（爪切りなど身だしなみを整える）は日勤職員が対応する事となっている。日勤で出勤した際、利用者Aさんからの呼び鈴が鳴り居室に向かうと、怒った口調で「いつ、つめ切んの？いつ生活点検してくれんの？」と言われてしまった。突然の事に冷静さを欠き、職員も強い口調で「今来たばかりで…」と言ってしまった。Aさんから「こないだの土曜日も、その前の土曜日もやってもらっていない」と再度怒った口調で言われてしまい、つい「こないだの事は（自分が日勤ではなかった為）分かりません」と感情的に言ってしまう等しばらく言い争いになってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・Aさんは居室で過ごしていることが多く、皆と同じ場所にいない為生活点検を職員が忘れてしまうことが多かった。本人からその日のうちにまだ終わっていない事の訴えもなく、職員も忘れていた事に気づかなかった。
- ・生活点検表がなく、誰が終わっているのかを職員間で把握出来ていなかった。そのため、支援会議の中で生活点検表を作成することを決めた。
- ・爪切りは土曜日（生活点検時）と決めつけてしまい、時間が空いた時に行うようにしなかった。
- ・突然に怒った口調で言われ、職員（自分）も感情的になってしまった事でなぜ本人が怒っているのかを理解しようとする余裕が持てなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-28. 委員会ポイントカテゴリー -① -④ -⑤

Aさんが昼食のハヤシライスを残していたため嫌いなのか確認したところ、手で×を作って「ダメ」と答えた。そこで、カレー味の物なら食べられるか尋ねたところ、「うん」とうなずいたため、ハヤシライスやポークビーンズはカレー味で提供することにした。その後、トマト鍋風煮のメニューの際にカレー味で提供したところ、トマト味を食べたかったとの訴えがあったため、確認したところ、これは食べられると答えた。トマト味はすべて苦手であると思い込んで提供してしまっていたため、メニューごとに写真などを提示して細かくAさんに確認することが必要であった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・「味が苦手」をトマトの味付けはすべて苦手なのだと思います、全てのメニューにあてはめて判断してしまった。
- ・Aさんの苦手の内容を、メニューごとに細かく確認することが必要であった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -⑤ -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-29. 委員会ポイントカテゴリー -① -④ -⑧

普段のルーティーンが崩されるのが嫌なYさん。避難訓練にはなかなか参加できていないため、前日に避難訓練があることとその時間について伝える。頷いて理解を示していた。しかし当日、非常放送が始まるとトイレの個室に入ってしまう、訓練終了まで出てくることはなかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・前日の説明で理解が得られたと思われたが、実は理解ができていなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -④ -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-30. 委員会ポイントカテゴリー -① -④ ⑨

コロナ禍の中、施設としての外出制限もありなかなか希望外出ができずにいたBさん。購入したいものがあり、職員が代理購入することとなった。購入してきたものをBさんに手渡そうとしたところ、「これじゃない」と話があった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・Bさんと職員との商品のイメージが共有できていなかった。色・形・大きさ等Bさんが希望するものについて具体的にしておく必要があった。
- ・写真等を使って確認するのも一つの方法であった。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-3 1. **委員会ポイントカテゴリー -① ⑨**

・感染症予防のため職員はマスクを使用しており、口の動き等でコミュニケーション（話していること理解）を図る方には意思疎通が困難であった。また、顔が隠れているため表情が分かりにくい状況であった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

マスクを着用しているため、口の動きや表情が伝わりにくいことが多かった。そのため文字や絵等を活用し、細かく丁寧に説明する配慮が必要であった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-3 2. **委員会ポイントカテゴリー -① -③ -⑧**

・感染症予防のため職員はマスクを使用しており、口の動き等でコミュニケーション（話していること理解）を図る方には意思疎通が困難であった。また、顔が隠れているため表情が分かりにくい状況であった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

マスクを着用しているため、口の動きや表情が伝わりにくいことが多かった。そのため文字や絵等を活用し、細かく丁寧に説明する配慮が必要であった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-3 3. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

・Sさんは他害のリスクが高いため個室で食事を摂っていた。また食べ始める前から終わりまで反復的行動のルーティンも長いため、本人のペースで食べられるように配慮して職員の干渉をなくした。結果、本人が食器を片付けて欲しいタイミングに間に合わなくなることが増え、その都度食器を割るようになった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・対応前までは自分で下膳していたが、そのこともこだわり行動であると見抜けなかった。
- ・こだわりが悪化して食器を投げつけて割ることが食事の終了の合図になってしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-34. **委員会ポイントカテゴリー -③ -④ -⑧**

普段あまり言葉での意思表示は少ないが、散髪で近所の理髪店に出かける時はにこにこ顔のBさん。長年通っていることもあり、店には引率職員が「いつも通り短めで」と依頼。振り返ると本人に好みの髪型を聞いたことはなかった。50代ということもあり、年相応の髪型が良いのではと支援側が勝手に判断して、同じような髪型が続く。また、コロナ禍で外出が難しく、施設に出張散髪という形で髭剃りはなくカットだけで済ませることもあったが、満足していると思っていた。本人は店に出かけるところから、シャンプー・髭剃りも含めた総合調髪、散髪後の店でのお茶を楽しみにしていた様子だった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・髪型の見本を提供したり、確認したりすることを怠った。
- ・単に髪が切れればよいと判断して、本人が望む総合的なサービスが提供できなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -④ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-35. **委員会ポイントカテゴリー -② -⑤**

利用者Sさんは本人から太ってきたのでご飯の量を減らして欲しいと希望される。極端に太ったわけではないが、ベルトがきつい、実際に若干体重も増えていたので、本人と確認の上、副食は変更せず、ご飯量のみを減らす対応をした。しかし、その場その場の気分の変容のある方で、意志の決定に一貫性がなく、少なくしたことで、食事の場で不満がでて騒ぎ出すことがあり、対応の統一ができなくなった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・気分にもラがある方ではあるが、本人の意思表示をしっかりとくみ取ることができなかった。
- ・対応策は状況を見て決めることも考えるべきであった。
- ・本人の根本的な希望がなんなのかくみ取ることが困難であった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-36. **委員会ポイントカテゴリー ⑨**

Iさんは自閉的傾向が強い方であるが、身辺面はほぼ自立しており、言葉による他者とのコミュニケーションも可能。5年ほど前から地域生活に対する知識や経験を増やすため、グループホーム（以下GH）の見学や体験など地域と触れる機会を設けながら、地域移行を念頭に支援をすすめてきた。質問などに対してはオウム返しが多く意思の確認が難しい方ではあるが、地域生活に対してはある程度明確に、GHに行きたいという意向を示すようになってきている。令和3年度に入り、ご本人が地域生活を送るにあたって十分な支援を受けられると思われるGHに空きが出たとの情報があったため、ご家族（成年後見人）にご本人の現在の意向や状況を説明し、意向に沿って地域移行に向けた支援をすすめていただきたいことを説明したが、理解が得られず地域生活への移行にはつながらなかった。ご家族に理由を確認したところ、「本人には難しいと思うから」「自分には分からないから」との話しが聞かれた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ご家族は10年以上本人と会う機会が無く、電話等での情報共有もほとんど行っておらず、ご本人の意向を含む現状やこれまでの経過を伝える機会が不十分であった。
- ・あくまで推測ではあるが、ご家族はご本人が施設を出ると言うことに対して漠然とした不安を感じていると思われる。障がいを持つ方の地域生活とはどういったものかということを始め、現在の地域の資源等を含む地域生活に対する情報提供が十分ではなく、ご家族の不安を拭うことが出来なかった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑨

○児童系

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-37. **委員会ポイントカテゴリー ⑨**

登園時のルーティンがある女兒。いつものように気持ちが落ち着くまで見守っていたが、なかなかトランポリンから切り上げられず、時間が経過してしまった為、区切りの良い所で活動の流れに入る促しを行った。 集団の活動には入る事が出来たが、ルーティンが崩された事で泣き出しがありクールダウンに時間を要してしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・スタッフ配置上、じっくり待つ時間が確保できなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑦ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-38. **委員会ポイントカテゴリー -① -③**

未就学女兒。表出が弱く、遊びやおやつなどの場面でも本人の意思が汲み取りづらい状況がある。選択出来る形にしたり、じっくり待つ時間を設けてもなかなか本児からの表出につながらず、結果的にはいつも職員主導の関りになってしまう。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人からの意思表出の手段が見つけられていない。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -② -③

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-39. **委員会ポイントカテゴリー ⑨**

食事時、周囲の様子が気になってしまい食が進まない利用児に対して強めの口調で、食べて欲しいことを伝えてしまったことで更に進みが悪くなってしまい完食までに時間を要した。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・環境調整
- ・「食べたい」と思えるような声掛けが出来なかった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-40. **委員会ポイントカテゴリー -③ ⑨**

<集団支援の場面で> Cさん(学童)

下校後、学校から事業所の送迎サービスで登園しているCさんだが、最近学校を欠席する事が増え、それに伴って事業所も休みがちになって自宅で過ごしている。ただし、学校を欠席した日でも、事業所には登園したいと希望する事があり、その時は保護者の送迎で利用している。暫くこのような状況が続いているが、保護者も仕事があって毎回の送迎は難しく、事業所の送迎サービスもこれまで通り学校なら可能だが、自宅がかなり離れていてルート変更が困難であり、本人が登園を希望しても応えられない事が出てきてしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

本人の希望が家族や事業所の都合で叶えられていない。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4 1. **委員会ポイントカテゴリー -③ ⑨**

＜集団支援の場面で＞Dさん(学童)

Dさんは宿題を中心に学習のフォローアップが支援に盛り込まれており、保護者からは宿題+αの要望が強い。宿題が終わってからも別な教材で学習の促しをする場面があり、宿題を終えて自由時間を過ごす他児がいる中ではなかなか気乗りしない事もある。基本的に学習が好きでDさんで意欲的な時も多いが、日によっては「みんなと早く遊びたいよ」「まだ勉強するの?」「ちょっとだけならいいけど…」などとトーンダウンしてしまう場面がある。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・家族の要望が優先される時がある。
- ・限られた支援時間内に家族の要望と本人の要望をバランス良く叶える事が難しい。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4 2. **委員会ポイントカテゴリー -① -③ -⑦**

週に1度のジュース購入日、Bさんの番で見守っているとBさんが飲めない炭酸飲を選ぶ。寮舎に戻りコップに移し替えて提供するも飲めず。同様なことが数回起こる。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・Bさんは自販機の飲み物が変わってしまうとその変化を理解するのが難しい。
- ・Bさんの飲めそうな飲み物を事前にBさんに知らせてから見守るといった支援が求められると感じた。
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー -⑦

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4 3. **委員会ポイントカテゴリー -① -③ ⑨**

自閉症9歳男児。会話での意思疎通は不可。

大型トランポリンで遊ぶことを好み、自ら要求することも多い。本児のスケジュールにトランポリンを組み込んできたが、終了を促すも終われないことが多かった。時間を多めに取ったり、タイムタイマーの使用や本児の好むおやつを次の活動にしカードや現物を提示するなど、試みたが改善されず。職員が本児の手を取ろうとするとトランポリンを降りてニコニコしながら、ホール内を駆け回り、追いかけることを楽しむようになってしまった。職員1名での対応は難しくトランポリン遊びは中止となった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・拘りが強く、切り替えが難しい。
- ・職員の反応を楽しみ、他の不適切行為へと繋がってしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4 4. **委員会ポイントカテゴリー -① -⑧**

中学1年男児。発語不明瞭、簡単な言葉でのコミュニケーションのみ可。職員が、朝のお集まりで、口頭で遊びの希望を聞くが、発語が上手くできず、職員も本児の意思表示を理解できなかった。本児の希望する遊びを準備し、選択肢も提示したが、その中にも本児が遊びたいものがなかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本児が楽しめる余暇の選択肢を提示できるよう日頃から職員が準備しておく。
- ・職員との会話で、本児が知っている単語を連呼してふざけてしまう場面もあり、意思形成及び表出が難しい。
- ・本児の発語が、よく読み取れない。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -④ -⑦ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4 5. **委員会ポイントカテゴリー -①**

本人がリビングへ出てきて声出しと「ください」の手話を用いて職員へ要求を出しているが、発語のない児童の為、職員が意図を汲み取って要求を叶えてあげることができなかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・要求カードを作成し提供しているものの、その使用が定着しておらず本人の意思が他者に伝わらないことがあった。
- ・就寝時に要求カードを余暇と共に回収してしまっていた為、夜間や早朝の本人からの要求があった際の意思表示の方法がなかった、

事業所判断ポイントカテゴリー -① -② -④ -⑦

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-4 6. **委員会ポイントカテゴリー -⑥**

入所施設で委託業者が調理、準備している毎日の食事（献立）に不満があり、その都度どういったものを食べたいか等本人の要望を職員が聞いているが、なかなか改善されていないようである。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・栄養面のバランスを考える上で要望に沿ったものを提供することが困難である。
- ・他の利用者とも同じメニューである為、簡単に変更ができない。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑥ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-47. **委員会ポイントカテゴリー ⑨**

下請け作業でメインとなっている作業を得意とする C さん。以前は、いろいろな作業への参加もあったが、メインとなる作業をお願いすることが多くなっているうちに、本人もメインの作業のみを好むようになっていた。その為、本人の様子を見守りながら他の作業種への参加も促しているが、本人からはメインの作業への参加希望が強く聴かれている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・メインとなる作業を得意とした事で、他の作業への参加機会が少なくなってしまった。
- ・いろいろな作業種への参加を定期的に促す必要があった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑦ -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-48. **委員会ポイントカテゴリー ⑩こだわり**

当事業所は市民交流センター内にあり、休み時間など事業所内で過ごすことになっているが、S さんは所内で過ごすことが難しく事業所外（ビル1. 2階）に行ってしまうことがあった。事業所内で過ごす為、自宅では何をして過ごしているか聞いてみると、YouTube やゲームをしているとの事だった。そこで、自宅からゲーム機を持ってきて休憩を所内で過ごすのはどうか提案した。ゲーム機を使う上で本人、保護者、職員で約束事について話し合い時間を守る事と休み時間が終わったらゲーム機を貴重品として事務所に預けることを決めた。当日ゲームをして、時間になり終了することは出来たが、「ゲーム機がかわいそう」と言って、ゲーム機を預けることが出来ず午後の作業に入れなくなってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ゲーム機を預けることが難しくなるという予測が出来なかった。
- ・本人が希望する環境設定が出来なかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑤ -⑦ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-49. **委員会ポイントカテゴリー** -③ -⑤ -⑥ ⑨

Kさん（統合失調症）

作業の種類によって製品としてのクオリティが低くなってしまふKさん。

ある日「私もみんなと同じ作業がしたい。」と職員に話があった。その作業に関してはKさんには難しかったため、練習を行っていたが、「練習ではなく本番をやりたい。」との話があった。しかし、製品としてのクオリティに達していない事と、職員の業務の忙しさのため、1人の利用者さんに対する指導時間が短くなっていた事も重なり、実作業を行う事ができなかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・職員体制。
- ・職員の業務を優先し、指導時間を作れなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑤ -⑥ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-50. **委員会ポイントカテゴリー** -① -② -⑤ -⑦

環境整備で枯れ葉の掃き掃除に行った。Sさんは何をやるにも仕草が豪快で、枯れ葉を掃いたり集める時も散らばっていることがあり、繰り返し「優しく 掃いてください」とお願いすると、「もう知らない！」と叫び、掃き方が乱暴になってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・Sさんが理解しやすいような説明(○や×)を使用していなかった。
- ・本人が変わらない様子のため、伝わっているかどうか分からないまま、間を置かずに繰り返し注意してしまつた。
- ・やさしく掃く動作を経験してもらっていない。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -⑤ -⑦

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-51. **委員会ポイントカテゴリー** -④ ⑨

Hさんの作業予定が外での作業であったが、人員等都合により急遽変更になった、その際変更について朝の打合せにおいて職員より全体にお話しをただけであった。その後、作業予定が変更になった事が理解されていなかったHさんは納得いかず、外へ飛び出してしまう、職員より静止されている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・作業の変更を全体に報告するとともに障害特性を鑑み Hさん個人にも直接説明すべき点を怠つた。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑥ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-5 2. **委員会ポイントカテゴリー -③**

・利用者 S さんは新型コロナの影響で、園外実習が延期になった頃よりリズムが崩れ作業にスムーズに入れず時間を置いてから入るようになってしまった。スムーズに入って頂くように音の出る タイマー機の時間設定をして取り組みましたが毎回スムーズに作業に入る事が出来ていません。引き続き何が本人にあってるか色々模索しながら支援して行きます。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の意思表示に応えることが出来ていない。
- ・作業が始まる事の声掛けを行い様子観察している。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-5 3. **委員会ポイントカテゴリー -③**

・利用者 Y さんは特定の方にしつこくまとわりついて嫌がられている。トラブルにならないように 誰かにまとわりついている場面を見かけたら離れるよう声掛けを行っている。しかし本人はどこふく風で、ひどくなっている様子もあります。特定の方以外にもしつこくまとわりつく行動が見られないか現在様子観察をしています。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・約束事を決めても守らない。
- ・毅然とした態度で接する。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-5 4. **委員会ポイントカテゴリー -⑦ -⑧**

下請け作業でメインとなっている作業を得意とする C さん。以前は、いろいろな作業への参加もあったが、メインとなる作業をお願いすることが多くなっているうちに、本人もメインの作業のみを好むようになっていた。その為、本人の様子を見守りながら他の作業種への参加も促しているが、本人からはメインの作業への参加希望が強く聴かれている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・メインとなる作業を得意とした事で、他の作業への参加機会が少なくなってしまった。
- ・いろいろな作業種への参加を定期的に促す必要があった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑦ -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-55. **委員会ポイントカテゴリー -③ -⑥**

利用者Dさんは、他の利用者の作業や言動に対して厳しく指摘したり、意にそぐわないことがあると大声で不満を言ったりすることがある。

ある時、年配の利用者に対して作業の不満をもらしていた。職員より、年齢や能力によって作業内容も支援も変わってくる。Dさんは頑張っているのだから、自分に自信を持ち、自分の作業だけに気持ちを向けてほしいことを伝えた。

しかし、Dさんにとっては、「就労支援事業所なのだから、作業をしっかり行うことが当たり前。作業に真剣に取り組んでいない人があるのはおかしい。」と納得がいかない様子。

確かにDさんが言うことも間違っていない。また、Dさんは「人による」「時と場合」等の理解が難しく、職員が言う「自分に自信を持つ」という意味もわからないという。

一つ一つの言葉に対して、「どういう意味なのか」を複雑に考えてしまう傾向があるため、説明や励ましが、かえって思考の混乱につながることもある。

なるべく単純明快な言葉を使い、単刀直入に伝えるようにしているが、難しさを感じる。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・ 本人はしっかり作業をしたいので、他の人も真剣に作業をするのがあたりまえだと思っている。しかし実際はそうではない利用がいる。

・ 就労支援施設であるが、就労に適さない利用者もいるため、本人に説明しても説得力が無い。
本人に説明しても、言葉の意味を理解できない。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑥

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-56. **委員会ポイントカテゴリー -③ -⑧**

普段、作業に集中して時間内によく手がうごいているBさん。

あまり手が動かさず、よそ見がちであった。疲れがある為と無理しないよう声かけを行う。手が進まない状態が続く。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ ①別な作業がしたい気持ちが汲み取れなかった。
- ・ ③選択肢がある場合、希望を聞く機会を設けるべきだった。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-57. **委員会ポイントカテゴリー -③ -④**

女性利用者さん Aさんと Bさんは、生活の場（GH）や作業場が一緒であり、力関係が出来ている。これまでは、パン班と菓子班に分かれて作業を行っていたが、Aさんがパン製造作業の希望があり、午前のみパン班での作業を行うこととなった。作業中も BさんはAさんに気を遣う様子があり、自分の作業が出来ない状況であったことから、ストレス発散のために更衣室内で奇声を上げることが多く見られるようになった。話を聞くもいつも「大丈夫」との返事のみであったため、作業内での環境改善として、距離を保つように作業の内容を変えるなど、全てではないが工夫してきた。また、作業能力としては長年携わってきたこともあり Bさんは作業工程や流れ等も理解している。これまでAさんの代わりに材料や道具を準備してくれた BさんがAさんのためだけに動くことが出来なくなったことで、自ら動かなくてはならなくなった。ある日、作業がつまらないとの報告を受ける。作業はお互いに責任を持って行いながら、それぞれの気持ちを尊重しお互いに依存しなくても良い環境を作るように日々努めている所である。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・作業内の環境を改善し Aさんとの関わりが減ったことで、Bさんのモチベーションを下げることになってしまった。
- ・Bさんはいつも「大丈夫」と職員に話している為、実際にBさんがどう感じているのか分からない点がある。

事業所判断ポイントカテゴリー -④ -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-58. **委員会ポイントカテゴリー -⑥**

自宅で暴飲暴食をしてしまい、体調不良を繰り返す女子利用者だが、個別支援計画に本人同意のもと、聞き取りやアドバイスをし、少しでも健康維持につながるよう支援をしてきた。初めのころは自分でメモを書いたりするなど、積極的に取り組む姿勢が見られていたが、時間の経過とともに本人が面倒くさがってしまい、次第にやらなくなってしまった。次期計画を作成するにあたり、今後はどうするか聞き取りを行ったところ「もうしません」（支援はいりません）との訴えがあり、違った側面からアプローチをすることとした。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・時間経過とともに面倒くさがりの性格が仇となってしまった。
- ・日中の部分はいかようにも支援できるが、自宅となると限界がある。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑥ ⑩

○日中活動系

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-59. **委員会ポイントカテゴリー -① -③ -⑧**

室内活動で教材活動や創作活動を行っているが、Bさんは中々好きな活動や取り組みたい活動が見られず、支援員が試行錯誤しながら取り組みを提案・提示している。その際、本人も「やりたい」と言い興味を示すものの、中々継続した取り組みには繋がらない。また、一ヶ所に座っていることが難しい（他が気になり場所を転々とする）事もあり、取り組みを分けて目先のやる事に見通しがつくようにしているが、すぐに席を離れてしまう。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の興味関心がどこにあるのかをつかめていない。
- ・継続して席に座っていることが難しい状態での活動提供。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑤ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-60. **委員会ポイントカテゴリー ⑩**

生活介護男性利用者のNさん。日中活動中出先で、転倒し膝を打ったがNさんは痛みも訴えず自立歩行で帰園した。擦りむいた左膝を看護師が治療すると、その後から歩行拒否した為、医師の診察を受けている。医師からは足の動きからもレントゲン等の必要はないと言われたが大事をとってレントゲンを撮り、結果異常なしであった。しかし、Nさんは歩行を拒否したままの為、3日後整形外科にセカンドオピニオンとして受診し、膝・股関節・腰のレントゲンを撮ったが、結果異常なしであった。その10日後、左膝下に熱感と浮腫みの症状がでてきた為再度通院したところ、MRIで不全骨折（レントゲンに映らない骨折）が判明し1ヶ月の安静との診断に至った。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・歩行拒否が本人の甘えもあると思いきなりました点ある。歩くと苦痛な表情をすることもあり、場面に応じて車椅子を使用し、本人の希望に添った対応を行った。
- ・医療処置には段階があり、すぐに不全骨折が分からなかった。
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-6 1. **委員会ポイントカテゴリー -② ⑨**

生活介護に通う R さん。これまで、作業ではバリ取りや袋入れ、材料の搬入等いろいろな作業に取り組まれていた。中でもバリ取りはペースがゆっくりであるが、得意な方で好んで作業に取り組まれていた。だがある日、保護者から R さんの手にできたタコを発見している。バリ取り作業でできたのではないか、他の作業をさせて欲しいと要望がありそれ以来、バリ取りには取り組まれていない。だがしばらくの間、R さんに作業の希望を伺うと「バリ取り」との返答があった。バリ取りでできたタコとは考えにくく、また材料の柔らかい物だけを選択すればバリ取りも可能と思われたが、保護者の理解は得られていない為バリ取り作業以外の作業に取り組んで頂いている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・今まで取り組んでいたものが、急にできなくなったことに対して、R さんは本心で納得しているか分からない。

事業所判断ポイントカテゴリー -② ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-6 2. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑦ ⑨**

荷物の整理が苦手であり、ロッカーの中が雑然としてしまう。本人から「消しゴムがない」との申し出があった際、ロッカーの片づけについて考えるきっかけになればと思い、「まずはロッカーの中をよく探してみてください」とお伝えしたところ不安定になり、職員につかみかかる行動が見られた。職員の思いや考えが先走ってしまい、「一緒に探してほしい」という気持ちに寄り添えず不安にさせてしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・利用者さんの思いに寄り添えなかった。
- ・“出来るだろう”との思いがあり、本人に任せようとしてしまった。
- ・本人の拘り、性格、障害特性を理解しておらず、職員主体の声掛けをしてしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -③ -④ -⑦ ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-63. **委員会ポイントカテゴリー -③ ⑨**

空き時間に他の利用者が落ち着かず職員が付き添い対応に追われ、その場から離れられない状況の時にその職員に対して触る、遊んで欲しいと訴えてくるがその場から動けない為、動画やTVなど観て過ごすことを促すがそれでも構って欲しい行動を取り、表情が険しくなり職員の手や肩を強くつかんだり、引っ張る行動が見られ落ち着かなくなった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・利用者さんの思いに寄り添えなかった。
- ・“出来るだろう”との思いがあり、本人に任せようとしてしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -③ -④ -⑤ -⑦ ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-64. **委員会ポイントカテゴリー -③**

Sさん、買い物訓練でセブンイレブンへ出掛ける。事前に家庭から渡された買い物リストには「コーヒーゼリー2個、団子1パック」と記載があった。店内では、商品陳列棚からコーヒーゼリー1個を取り買い物カゴに入れた後、プリンを手をしている。そこで、支援者が「コーヒーゼリー2個ですね」と声掛けしたところ、手にしていたプリンを棚に戻してしまった。その日の連絡帳に家庭へプリンを手をしていたことを伝えると「買って良かった」という返答があった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・事前に、家庭とSさんがその場で買いたいものがあった場合のことも確認しておくべきだった。
- ・本当にSさんが欲しいものを購入できているのか。

事業所判断ポイントカテゴリー -① ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-65. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑤ -⑧**

Kさんがドライブに行く際に、どこに行きたいかの意思の汲み取りが（表出がなかなか出来ない為）難しく思っている。また、その方が食事の際、おかず等を小鉢に入れて提供しているが、気持ちや好みがその日によって違いがあり、好きなものやおかずなど、どの順番で提供したらよいか考えてしまう。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

事業所判断ポイントカテゴリー -④

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-67. **委員会ポイントカテゴリ** -① -② -④

Aさんがその日・その時の気持ちに変動があり、その都度の適切な対応を悩み、考えながら、また模索しながら提供して、関わっている。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

事業所判断ポイントカテゴリ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-68. **委員会ポイントカテゴリ** -④ -⑤ ⑨

散歩に行くのが好きなKさんだが、歩行スピードがゆっくりで他利用者さんより、体力も続かない為、散歩の途中で怒って声を上げる事があった。本人のペースに合わせ、距離も変えれば良かったのだが、他利用者もいた為、個別対応が困難であり、周囲と同様のコースを歩いて帰って来た。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・個別に対応できる体制づくりになっていない。
- ・本人の体力や歩行ペースに合わせたコースの選択。
- ・歩行途中の本人の意思の確認不足。

事業所判断ポイントカテゴリ -② -③ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-69. **委員会ポイントカテゴリ** -② -④ -⑦

サークル活動を決める際に、様々な道具を用いて、本人の活動選択の意思確認をしたが、全ての道具に反応してしまい決める事が困難だった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人に活動の内容をうまく伝えられなかった。
- ・道具の種類が多すぎて選べなかったのか、本人の思う道具で無かったのか。

事業所判断ポイントカテゴリ -⑤ -⑦ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-70. **委員会ポイントカテゴリー -② -④ -⑦**

音楽活動中にFさんは、リクエストしたい曲があり、職員に口頭で伝えたが、職員が聞き取れた曲を流すと「違う」と言い、本人の希望する曲で無かった。他職員も同様に聞き取りをして、別の曲を流すが該当の曲ではなく、最終的にリクエスト曲を変更して頂いた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・曲名の言葉だけに囚われてしまった。
- ・写真や文字、歌手の名前等様々な角度からアプローチ出来なかった。
- ・周りの方々も待っていた事で、時間に制限がありゆっくり聞く事が出来なかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -⑦ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-71. **委員会ポイントカテゴリー -⑤ -⑦ ⑨**

女性Sさんは、家族の都合で毎日午後の活動途中で帰宅されている。Sさん自身は活動に参加している間は、とても楽しそうな表情過ごされており、活動を中断する際には、残念そうに帰宅される姿がある。早く帰宅する明確な理由がなく、本人さんの様子等を伝えながら何度も帰宅時間の提案をしているが、理解して頂けない。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の意思とは関係なく、家族の意向が優先されてしまう。
- ・家族に話すも受け入れて頂けない。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-72. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑤ ⑨**

当施設では週に2回、自販機でのジュース購入を行っていたが、新型コロナウイルスの感染対策から、利用者さんが自分で自販機のボタンを押すのではなく、自販機の画像を提示して選んでもらい、職員が希望の物を購入して提供する方法を取っていた。Hさんは画像を見て「これ」と飲みたいジュースを指さしていたが、購入後提供すると「いやだ、違う。」と泣き出してしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・自販機の画像でHさんがジュースの中身を判断できたのか等の配慮が足りなかった。言葉で飲み物の説明をする事なども必要だったかもしれない。
- ・Hさんにとっては、自分で自販機のボタンを押すことが楽しみだったのかもしれない。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-7 3. **委員会ポイントカテゴリー -① -④ -⑤**

食に対する欲が強い。食材を保管してある場所を把握していて、食材があることがわかると走り出して食べてしまう。他人の食材に手を出してしまうため目が離せない。食べることのできない危険なものまで口にしてしまう。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・食べ物、本人が手に取ってしまうもの、あらゆるものを本人の目の届かない場所にしまっても、一瞬の間を見計らって口にしてしまう。その対応方法に苦慮している。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-7 4. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑤ -⑦**

A さん（精神）は、自分に合った B 型事業所を探していた。見学や体験をすると「スタッフや利用者の〇〇が嫌だった。」と言って、その事業所の悪い所が気になって悩んでしまうようだ。

ある日、A さんから「次は〇〇の見学をして来ます。」と予定の報告を受けた。支援者である私は、また嫌なことが気になって悩むことになるのではないか・・・と思ったが、A さんのやる気を削がないように「がんばってくださいね。」と声をかけた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・A さんのやる気を削がないように考えることは良いが、それだけに留まらず、見学するポイントや気になることなどを事前に一緒に考えるべきだった。

・A さんが、慣れない人との関わりが過敏になる傾向を読み取り、人との距離をはかれるよう助言すべきであった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -③ -⑥

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-75. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑤ -⑦**

男性 自閉症 30代

自治会で遠足があり、テレビに映し出して事前に利用者全体に説明している。職員が傍でテレビに映し出した内容を書き出し説明している。

職員間での検討で昼食は選択制にすることとなっていたが、その時2は種類が確定しておらず、不透明なことに苛立ちを感じさせてしまうと思い、暫定的に昼食は「カレーライス」と紙面にて伝える。何度か指さしをしていたため、口頭でも「遠足、ごはん、カレーライス」と話すと静かに頷いていた。全体への説明が一通り終わった際にも紙面を指さし確認があったため、同じ内容を伝えると自傷があった。その後の生活でも自傷は見られた。

後日、確定した昼食の種類を写真で掲示すると別のものを選択していた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の自傷や苛立ちを警戒したあまり、本人の意思確認を怠った。
- ・昼食の内容が自傷の原因かと思われるが、発語や否定の意思表示もなく正確な原因はわからなかった。
- ・

事業所判断ポイントカテゴリー -① -② ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-76. **委員会ポイントカテゴリー -③ -⑦ ⑨**

自閉傾向の強い利用者

他の利用者との散歩に参加せず、体を動かすようにマンツーマンで長距離散歩を実施していた。各職員が本人の希望したコースを歩いていたが本人も公園等に興味を持ち始め、自分の行きたい方向へ散歩に行くこともできた。結果、好きな公園等に行こうとしたり、すべり台や鉄棒等で、動かなくなってしまう、どんどん散歩時間が長くなってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・本人の希望を優先に散歩を行った結果、本人の障がい特性がより強く現れてしまい、支援が困難になってしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-77. **委員会ポイントカテゴリー -⑤ -⑦ ⑨**

日中活動の中で、「個別活動」の時間を設け、それぞれ絵画や手芸など好きなことを行っている。その時間は「作業」か「個別活動」を利用者が選択し、活動にしている。

60代女性利用者。今まではほとんど作業を選んでしたが、他の利用者が行っているキャラクターのアクアビーズを見て、「自分もアクアビーズをやりたい。他の人が持っている箱に入ったセットのビーズを買いたい」と話してきた。コロナ禍で買い物を伴う行事も中止しており、自宅では高齢の両親と買い物に行く機会もないため、保護者に連絡し本人が出来そうなアクアビーズを職員が代行して購入することを検討していた。セットのビーズは下絵が見つらく、本人では難しそうなこと、また本人が欲しがっているセットビーズは3000円近くするため、まずは100円ショップ等で購入できる高額ではないものにしてはどうかと話す。「わかった。今度お母さんに電話で聞いてみて」と言っていた。

後日、本人から「アクアビーズは他県に住んでいる妹に買ってもらって送ってもらうことにした」と話があり、その後妹から送られてきた箱入りのセットビーズを持ってくる。職員側の予想通り、本人が下絵の色を見てその上に同じ色のビーズを置くことが難しく、本人に一つずつ色を教えながらビーズを置く場所を教えるが、本人の理解力の問題か老眼もあるためか、なかなか形にならず職員が手伝い1つ仕上げる。自分で作ったという達成感も得られなかった様子。数日後、自分で挑戦するものの「こんなのできない」と言い途中で諦め終わらせていた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・本人には「保護者に連絡して了承を得られれば職員が購入する」と伝えていたが、本人はキャラクターもので他の人がやっているセットビーズが羨ましく早く欲しかったため、自分で妹に電話し購入してもらったのではないか。

・本人がビーズを欲しいと言った時点で、実際にアクアビーズをやってもらい、できるかどうか確認すれば良かった。本人が「自分には難しい」と経験すれば、本人が自分の力で楽しめる別な余暇的活動を提案できたのではないか。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-78. **委員会ポイントカテゴリー -① -④ -⑦**

(自閉症のA子さん)

外出支援の際、自販機でジュースを選択購入。初めに職員が確認のため、「どの飲み物にしますか？」と尋ねるとAさんは「これ」と言ってペットボトルのリンゴジュースを指さしていた。お金を投入して「ボタンを押しましょう。」と声を掛けると、勢いよく缶コーヒーのボタンを押してしまう。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・Aさんがボタンを押す直前まで確認・声掛けが不足していた。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -③ -④

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-79. **委員会ポイントカテゴリー -④**

片付けが苦手な方について、どこに何を片付ける のイラスト（カード）を提示し、言葉で伝え、支援者と一緒に片づけを行いました。今までの生活の中で、カードを使うことがなかったため、理解しづらく、イラストを全部外してしまいました。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・カードの理解が得られない方について、根気よく、支援者と一緒に片づけする時間を作るべきであった。
- ・カードを使うより本人の持ち物を整理すべきであった。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑦ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-80. **委員会ポイントカテゴリー -⑧**

お菓子食べるのいつ？と尋ねてくるAさんが手帳を持って食べる日を記入してほしいと話す。記入するが、カレンダーの見方や文字の理解が難しいため、その場は書いてもらったことに満足するが、すぐに同じ質問が繰り返される。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・伝える手段の工夫が足りなかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-81. **委員会ポイントカテゴリー -① -⑥ -⑧**

Aさんは白内障があり、手術が必要だった。毎回、通院の度に父母が同席していたが、本人への手術説明をもう少しわかりやすく伝えればよかったと思った。聴覚障害があるので筆談で伝えたが、理解されているかは不明。絵や写真などを使い、本人に分かりやすく伝えた方がよかったと思う。父母は手術に同意したので手術したが、本人が納得できていたのだろうかと思った。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・手術の説明の仕方
- ・手術するかしないかを本人へ確認すべきだった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -③ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-8 2. **委員会ポイントカテゴリー -⑦ ⑨**

年齢的な身体・体力の衰えから作業中もイスに座って休んでいることの多い A さん。職員が「店にパンを持って行ってほしいんですが、いいですか？」と伝えると「はい」と答え職員からパンの入った番重を受け取った。しかしサンダルを履き替えることなく作業室内に戻ってきて、別な出入り口の方に泣きながら歩いていく。泣き方がひどいので職員が「行けないなら別な方をお願いしますが」と言う本人「行きません」と拒否された。しかしその後、店の番重を回収してきて職員に見せながら(パンの納品には行けなかったが、店にはきちんと行って洗い物を取ってきた事をアピールしているのか)「ごめんなさい」と謝ってきた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・職員からの頼み事に対して「はい」と返事をされたことで、本人がその作業を了承してくれたと思ってしまった。
- ・本人の表情の変化や意思を確認することはできたが、お願いした作業には取り組めなかった。
- ・事後に本人が「ごめんなさい」と謝ってきたが、そのような思いをさせてしまった事、反省させられた。どうしてお店に行けなかったのかは理由が分からない(雨だったから・腰が痛かった・自身の将来への不安等々)

事業所判断ポイントカテゴリー -③ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-8 3. **委員会ポイントカテゴリー -① -⑦**

50代女性。就 B を利用し自宅より交通機関を利用して通所している。両親とも他界しており、現在は弟夫婦と同居。在宅時は部屋にこもっており関係性も良好とは言えず、弟の言うことは聞き入れようとしないう状況。

本人は高血圧疾患があり、日中活動中も時折頭痛や倦怠感で不調を訴える事があった為、通院治療を勧める。本人は職員と一緒に通院しても良い と意思を表す。ご家族も本人がそういうのであれば、とのことで月に一度通院し、服薬を開始した。その間これまでより体調不良を起こすことなく過ごしていたが、何かのきっかけにより毎朝毎晩計測していた血圧測定も行わなくなり、服薬も滞るようになった。そろそろ前回の通院から 1 ヶ月が経つという時に本人に通院の声掛けを行うと「行きませんか?」「薬飲みませんか?」と顔をしかめ、強めな自己主張をされました。降圧剤は服薬を止めると良くない事を何度も伝えましたが、断固として再び通院する事を拒み、現在は治療を行っていない状況です。ご家族も「自分(弟)の言うことは一切聞かないので、姉がそのように言っているのであればもういいです」とのこと。その後は血圧も上昇傾向にあり、体調不良も見られています。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・何かのきっかけがあったと思われるため、そこにもっと着目すべきだった。
- 納得がいかないと行動に移さないような性格を考えて、声掛けすべきだった。
通院に同行する職員を本人に洗濯してもらうことも考慮すべきであった。
本人の性格上のくせがよく分からない。家でのようすがどうなのか、学園内の把握は職員の予想でしかない。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -④ -⑦ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-84. **委員会ポイントカテゴリー -④ -⑨**

アイテムを常に手に持っている A さん。作業中もアイテムを手にする様子があるため、作業中は手の届かない場所へ置くようにした。アイテムが手の届かないところにある不安なのか、作業中、頻繁にトイレに行くようになってしまった。トイレに行く時はアイテムを手にして、いつも以上にトイレにこもる時間も長くなってしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・落ち着いて作業をしてもらいたいと思った支援が、余計に利用者さんの不安・不穏をあおる形になってしまった。

事業所判断ポイントカテゴリー -② -⑤

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-85. **委員会ポイントカテゴリー -⑧**

C さん（女性、知的障害、身体障害）

発語はないが、表情や声のトーン、質問に対して相手の手をタッチするなどして意思表示をされる C さん。レクリエーション活動で外出した際、事前の情報で「アイスクリームは好んで食べない」という話があった為、外出先ではアイスを選択肢から外して、好きなジュースを購入した。（ジュースは本人の目線やタッチなどから、本人の好きなものを選んだ）

しかし、その後のレクリエーション活動やおやつで、C さんはアイスやシャーベットを食べることがあった。味やその時の気分などによって、C さんもアイスを食べられるのではないかと感じた。今後はあらかじめ選択肢から外すのではなく、アイスも選択肢に入れて C さんの希望を伺っていきたい。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

・事前の情報により、C さんの希望を聞く際に先入観があった。
・もし C さんがアイスを選んだとしても好みではないので、食べずに残してしまいもったいないという支援者の思いがあった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -⑤ ⑨ ⑩

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-86. **委員会ポイントカテゴリー -⑤ -⑧**

Dさん（男性、知的障害、自閉症）

選択活動で「運動」か「音楽」を選ぶ際に、ホワイトボードに絵を描いてDさんの希望を聞いたところ、「音楽」の絵が描いてある方に自分の顔写真を貼った。そのため音楽を希望されていると思い、YouTubeで聞く曲のリクエストを聞いた。本人の好きな曲を何曲か流したが、表情が暗くなり楽しんでいる様子もなく、何度も部屋から出て廊下に行っていた。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・ホワイトボードに絵を描いただけで聞き取りしただけのため、支援者からの質問の内容が理解しにくかったかもしれない。ご本人に分かりやすい方法で、もっと時間をかけて丁寧に聞き取りすべきだった。
- ・実際に体験してから改めて選んで頂くと、より分かりやすかったのではと感じた。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -④ -⑤ -⑧

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-87. **委員会ポイントカテゴリー -① -⑥**

普段からあまり言葉を発しないTさん。質問した時に、何か言いたそうにしていたが、言葉が出ない様子であった。そのため、「はい・いいえ」を指さしで示せるカードを提示して「はい・いいえ」で答えられるような質問をしたが、何も指ささず、反応もなかった。ある程度、時間が経ってから小さい声で話したが、全く聞き取れなかった、聞き返すと口を閉じてしまった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・「はい・いいえ」で答えられないものは「はい・いいえ」カードで伝えることが難しいため、質問の仕方に配慮が必要であった。
- ・筆記ができる方なので、ノートや紙に書いてもらう手段もあった。

事業所判断ポイントカテゴリー -① -②

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-88. **委員会ポイントカテゴリー -① -④ ⑨**

避難訓練中、「避難したくない、動きたくない」と主張していたが、実際の災害の場面では、その主張を尊重することができないため、職員主導、職員の都合で本人を移動せざるを得なかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・理解力のある利用者であり、避難訓練であることを十分に把握することができていたはずだが、スムーズに避難訓練に参加できるようになるための手段、声かけ等に工夫が必要と感じた。

事業所判断ポイントカテゴリー ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-89. **委員会ポイントカテゴリー -① -④ -⑧**

Cさん(30代男性・自閉症)は最近給食をあまり食べられないことが続いており、以前は食べていたご飯(白米)もほとんど食べることが出来なくなっていた。母からの情報で自宅では柔らかいご飯を出しているとあり、給食でも柔らかいご飯を提供すると一度食べることが出来た。そのことから「Bさんは柔らかいご飯が良いのだ」と職員で思い込んでしまい、その後も柔らかいご飯を提供したがBさんは食べることがなかった。母からの情報だけを頼りに Bさん本人の意思を確認できていなかった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・一度食べたことによる職員の思い込み
- ・本人の意思を確認できていなかった
- ・以前は食べていたというイメージがあった

事業所判断ポイントカテゴリー -① -④ -⑧ ⑨

【本人の意思決定支援が困難だった実例・失敗実例】

B-90. **委員会ポイントカテゴリー -③ -⑥ ⑨**

週末の半日活動について利用者へイラストを使用し事前に希望を聞いている。今年度から「お休み」のイラストを追加しAさん(30代女性・強度行動障がい)に聞くと「お休み」を選ばれた。そのことを保護者へ伝えると「たまたま選んだんじゃない?」と当日出勤された。その日Aさんは涙を流し「帰ろう」と言い、不安定になって職員へ他傷があった。

【配慮が困難だったポイント及び考察 等】

- ・家族と連携を取って本人の希望を実現できるよう対応が出来なかった。

事業所判断ポイントカテゴリー -③ -⑤ -⑥ -⑧ -⑨

令和3年度 カテゴリー分類図（成功事例4系統）

日中活動系



- ・⑧「選択肢」が18件で一番多い。
- ・⑨「周囲の都合が優先」が0件で一番少ない。
- ・その他は2件となっている。

児童系



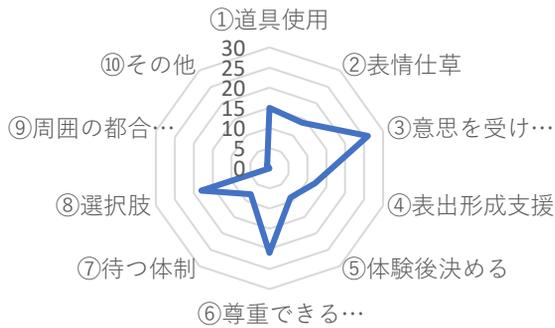
- ・②「表情仕草」④「表出形成支援」が6件で一番多い。
- ・⑤「体験後決める」⑧「選択肢」⑨「周囲の都合が優先」が0件で一番少ない。
- ・その他は0件となっている。

就労系

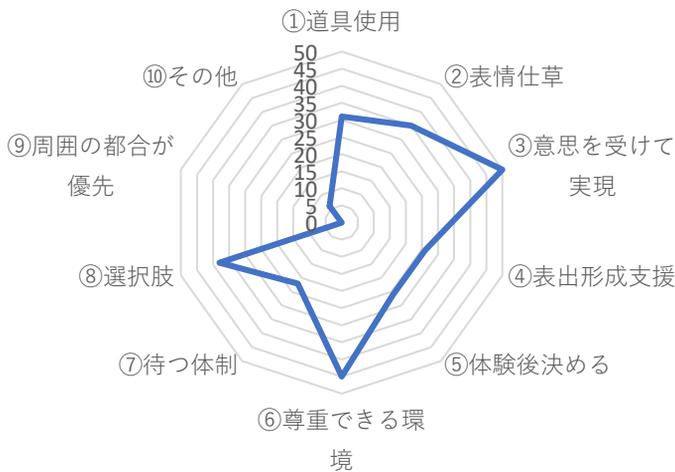


- ・⑤「体験後決める」⑥「尊重できる環境」が6件で一番多い。
- ・⑨「周囲の都合が優先」が0件で一番少ない。
- ・その他は3件となっている。

居住系



- ・③「意思を受けて実現」が26件で一番多い。
- ・⑨「周囲の都合が優先」が0件で一番少ない。
- ・その他は1件となっている。

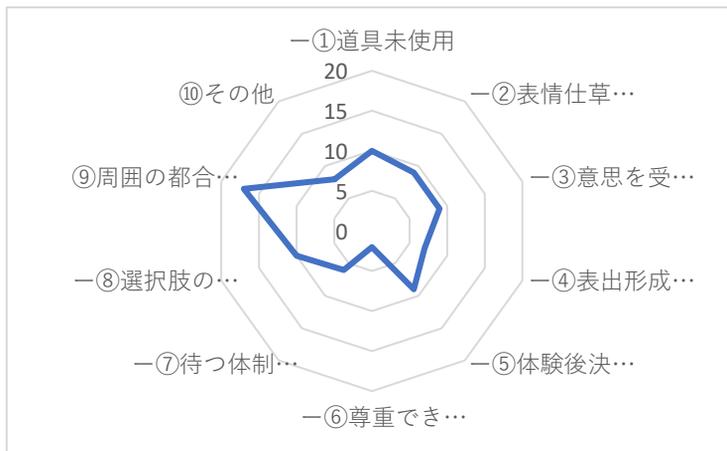


カテゴリ	日中活動系	児童系	就労系	居住系	合計
①	8	5	3	#	31
②	11	6	4	#	35
③	16	3	5	#	50
④	6	6	2	#	26
⑤	11	0	6	9	26
⑥	16	2	6	#	45
⑦	6	4	4	8	22
⑧	18	0	2	#	38
⑨	0	0	0	0	0
⑩	2	0	3	1	6

- ・全体的に③「意思を受けて実現」が高い数値となっている。
- ・⑧「選択肢」は日中活動系、居住系で高い数値であったが、児童系、就労系では数値が低くなっている。逆に⑦「待つ体制」は児童系、就労系では数値が高くなっているが、日中活動系、居住系では数値が低くなっている。

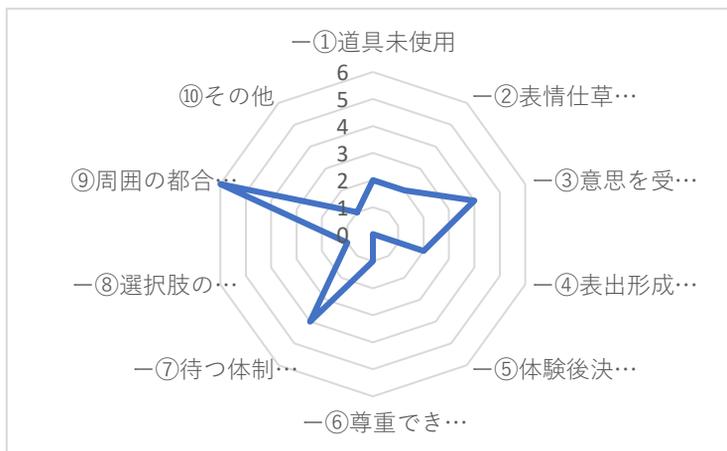
令和3年度 カテゴリー分類図（失敗事例4系統）

日中活動系



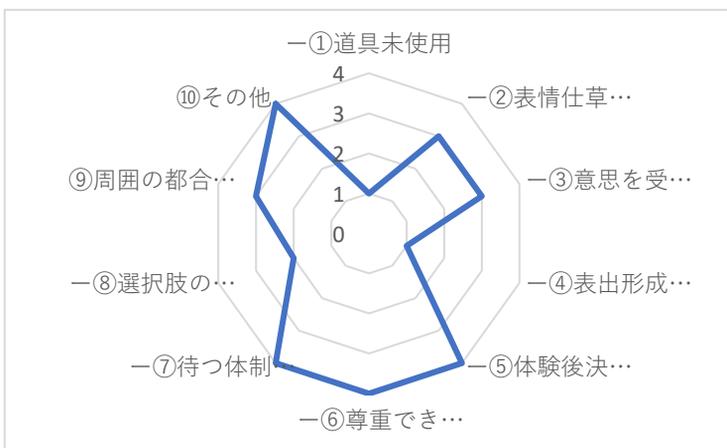
- ・ ⑨「周囲の都合が優先」が17件で一番多い。
- ・ ⑥「尊重できる環境」がないが2件で一番少ない。
- ・ その他は8件となっている。

児童系



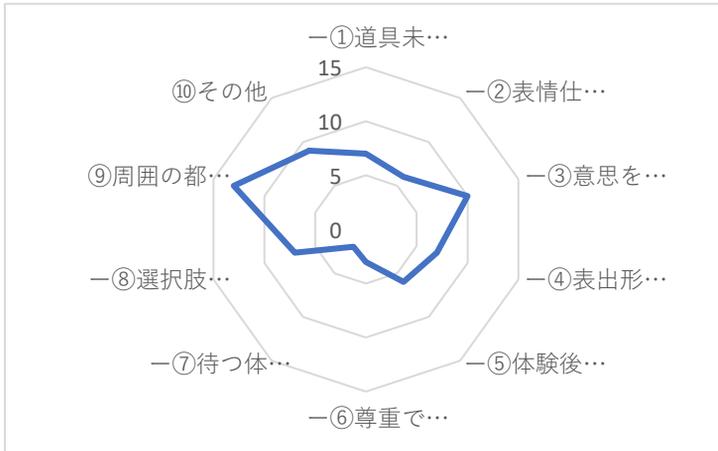
- ・ ⑨「周囲の都合が優先」が6件で一番多い。
- ・ ⑤体験後決めていないが0件で一番少ない。
- ・ その他は1件となっている。

就労系



- ・ ⑤「体験後決めていない」
- ・ ⑥「尊重できる環境がない」
- ・ ⑦「待つ体制」がないが4件で一番多い。
- ・ ①「道具未使用」 ④「表出形成支援されていない」が1件で一番少ない。
- ・ その他は4件となっている。

居住系



- ・ ⑨「周囲の都合が優先」が13件で一番多い。
- ・ ⑦「待つ体制がない」が2件で一番少ない。
- ・ その他は9件となっている。



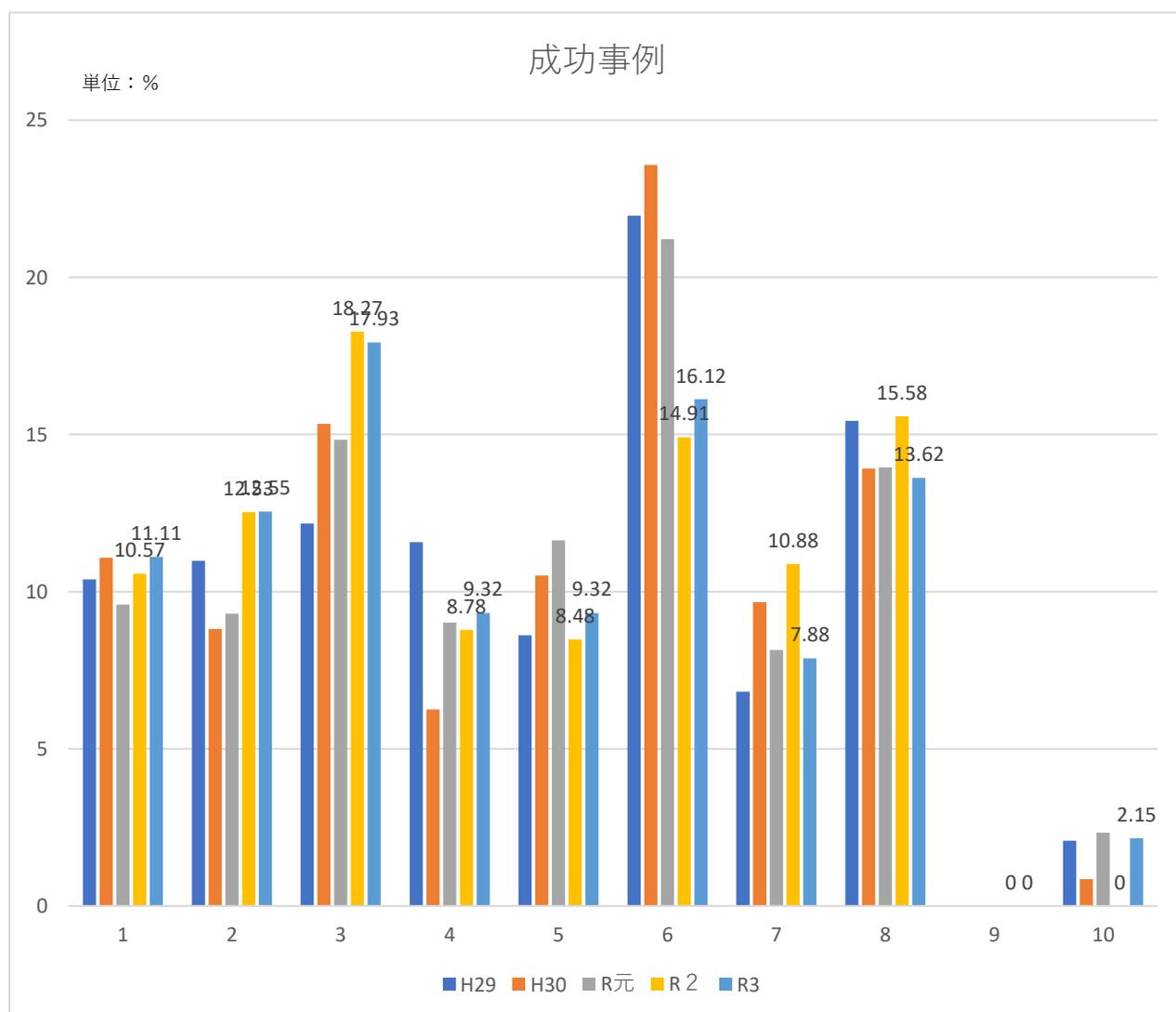
カテゴリー	日中活動系	児童系	就労系	居住系	合計
①	10	2	1	7	20
②	9	2	3	6	20
③	9	4	3	#	26
④	7	2	1	7	17
⑤	9	0	4	6	19
⑥	2	1	4	3	10
⑦	6	4	4	2	16
⑧	10	1	2	7	20
⑨	17	6	3	#	39
⑩	8	1	4	9	22

【全体の傾向】

- ・ ⑨「周囲の都合が優先」が成功事例では全体値で0件対して、失敗事例では全体的に高い数値となっている。
- ・ ⑥「尊重できる環境がない」は全体的に少ない数値となっている。
- ・ ⑩「その他」の数値も成功事例に比べて22件と高く、行動障害や強いこだわり行動が「意思決定支援」に繋がらない事例が多くあった。

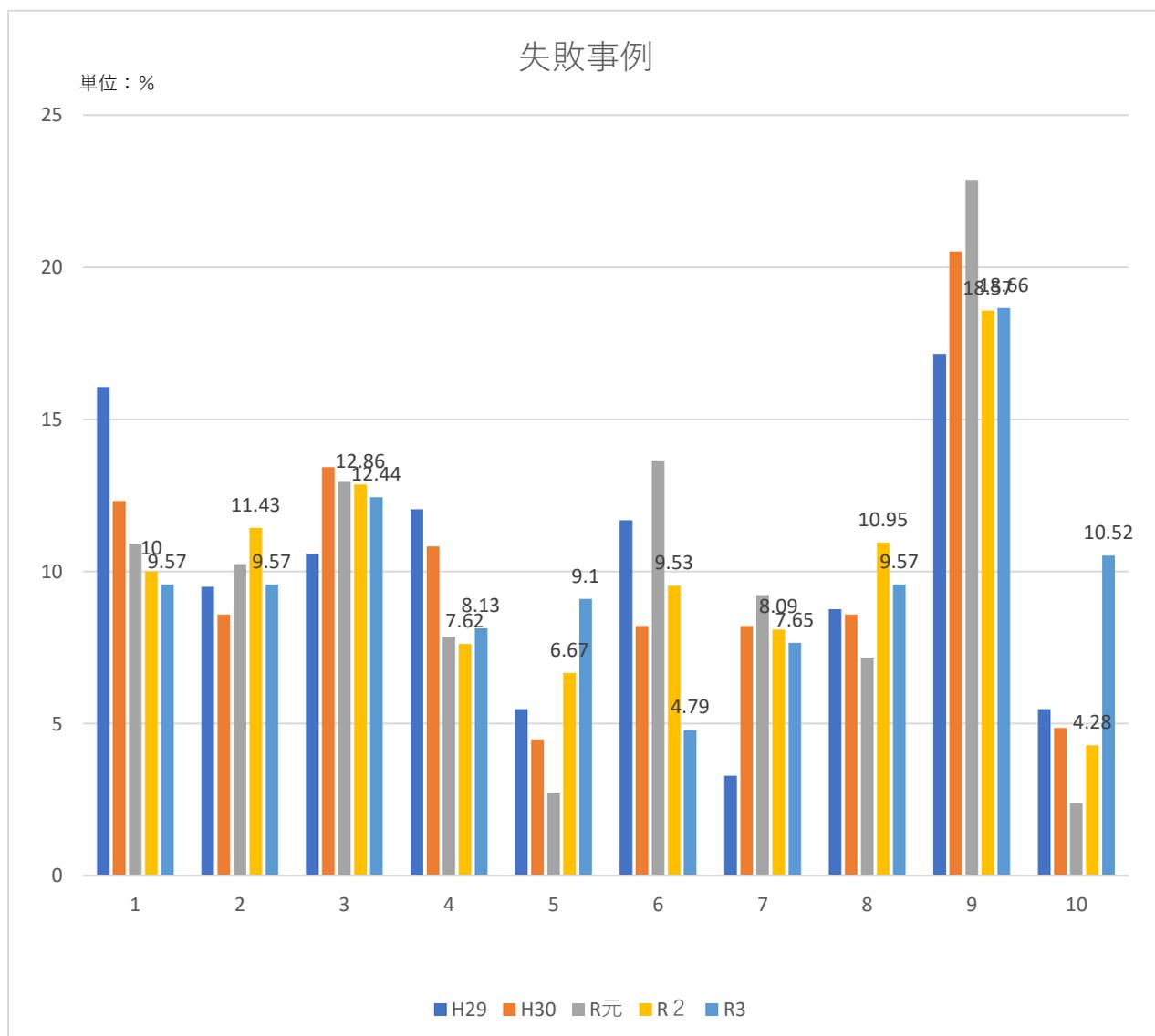
5年間のカテゴリー分類比較図

カテゴリー	H29	H30	R元	R 2	R3	5カ年合計	上位
①道具使用	10.39	11.08	9.59	10.57	11.11	52.74	
②表情仕草	10.98	8.81	9.3	12.53	12.55	54.17	
③意思を受けて実現	12.17	15.34	14.83	18.27	17.93	78.54	②
④表出形成支援	11.57	6.25	9.01	8.78	9.32	44.93	
⑤体験後決める	8.61	10.51	11.63	8.48	9.32	48.55	
⑥尊重できる環境	21.96	23.58	21.22	14.91	16.12	97.79	①
⑦待つ体制	6.82	9.66	8.14	10.88	7.88	43.38	
⑧選択肢	15.43	13.92	13.95	15.58	13.62	72.5	③
⑨周囲の都合が優先	0	0	0	0	0	0	
⑩その他	2.08	0.85	2.33	0	2.15	7.41	



5年間のカテゴリー分類比較図

カテゴリー	H29	H30	R元	R 2	R3	5カ年合計	上位
①道具未使用	16.06	12.31	10.92	10	9.57	58.86	③
②表情仕草を汲み取れない	9.49	8.58	10.24	11.43	9.57	49.31	
③意思を受けて実現していない	10.58	13.43	12.97	12.86	12.44	62.28	②
④表出形成支援されていない	12.04	10.82	7.85	7.62	8.13	46.46	
⑤体験後決めていない	5.47	4.48	2.73	6.67	9.1	28.45	
⑥尊重できる環境がない	11.68	8.21	13.65	9.53	4.79	47.86	
⑦待つ体制がない	3.28	8.21	9.22	8.09	7.65	36.45	
⑧選択肢の提供がない	8.76	8.58	7.17	10.95	9.57	45.03	
⑨周囲の都合が優先	17.15	20.52	22.87	18.57	18.66	97.77	①
⑩その他	5.47	4.85	2.39	4.28	10.52	27.51	



人権・倫理委員による編集後記

新型コロナウイルスによる影響で大変な中、成功例及び失敗例の事例をご提供いただき誠にありがとうございました。日頃から「意思決定支援」を現場で意識して試行錯誤しながら利用者の皆さんに寄り添っている支援員の皆様の様子が目に浮かび、頭が下がる思いです。障害者総合支援法では「障害者の意思決定の支援に配慮するとともに、常にその立場に立って支援を行うよう努めなければならないものとする」と規定されており、正に意思決定支援が私たち支援者の使命であることは明らかであります。この事例集はその意思決定支援の取り組みのノウハウが詰まった内容となっております。今後この事例集が利用者の皆様の思いを形にする支援の一助となることを願っております。

(みなみテラス 管理者 馬上政彦)

意思決定支援において、私たち専門職が陥ってしまいがちなのがベスト・インタレスト(最善の利益)という考え方です。「最善の利益」という言葉は、あたかも利用者の方を最優先で考えているような錯覚を起こしますが、ベスト・インタレスト(最善の利益)は最終手段です。まずはご本人の力を信じ、意思形成支援や意思表示支援を行い、ご本人の意思と選好を収集して蓄積していくことが私たちには求められます。さらに表明された意思について「できる・できない」「折衝案は」とすぐに考えるのではなく、まずはご本人の立場に立ってその気持ちを100%支持してみることが大切です。迷いながら悩みながら、意思決定支援をこれからも共に学んでいきましょう。

(生活介護事業所のはら 管理者 鈴木繁生)

初めて「意思決定支援事例集」の作成に少しだけ携わらせていただきました。改めて支援員の仕事は、思いに寄り添う気持ちが大切だと感じました。日常の忙しい場面では、ついつい支援者側の思い込みや価値観を利用者に押し付けてしまいます。利用者の些細な変化や、僅かな意志を見逃さず、より良い支援をしていきたいと思いました。また、数多くの事例を読ませていただき、どこの事業所も同様な失敗体験や、困り事を抱えており、情報共有の大切さが身に沁みました。この事例集を多くの支援者に見て頂き、今後の意思決定支援の場面において参考にしていただきたいと思います。

(社会福祉法人銀河 サンハイツ霞ヶ入Ⅱ サービス管理責任者 蛭原友之)

今回、初めて意思決定支援事例集の作成に携わらせて頂きました。各事業所から提出された事例を読ませて頂いたところ、日々の支援の忙しさのなかで、対応が十分に行き届かなかったり、意思決定表出はされているが、実現されていない事例が多くありました。私たち支援者は、表面化している問題に対してアプローチをしようとして行き詰ることがよくあると思います。成功例を読ませて頂き感じたこととして、これらは、表に見えてこない本来のニーズや環境的な要因を探っていくことで、本人が本人らしい生活(活動)を送れると改めて思いました。今回、学ばせて頂いたことを活かし、これからも、本人の気持ちに寄り添った支援をしていけるよう、チームが同じ方向を向いていければと思います。

(いわき学園 支援課長 篠原 愛)

挙げていただいた実例を拝見し、それぞれの事業所で悩みながらも利用されている方の思いに寄り添う支援に努めていることが伝わり、とてもうれしく感じています。障害があることで意思を伝えることに難しさはありますが、その人の持つ意思の大切さは障害の有る無しで変わるものではありません。日ごろの支援が、いつの間にか支援者本意の支援にすり替わらないためにも、継続的な意思決定支援をお願いいたします。

(入所支援事業所アルバ 管理者 三島木尚也)

今年度はコロナ渦で大きなイベント、外出等の制限がある生活の中でも、職員の様々な工夫やアイデアで利用者様に寄り添った事例が多くあったように感じます。もちろん、失敗事例にもあったようにうまくいかなかったこともあるかと思います。それでも、利用者様のために関係者の皆様が行った努力は必ず利用者様に伝わっていると思います。一つの事業所では抱えきれない問題もこの意思決定事例集を通してヒントをもらい、支援に活かしていただければと思います。来年度以降も意思決定支援事例集の取り組みは継続しますので、失敗を経験した事例は成功に向けての取り組みを、成功を経験した事例は更に利用者様に寄り添った支援ができるように、関係者の皆様で福祉を盛り上げていきましょう。

(あさかあすなろ荘 生活支援員 高杉恭平)

令和4年3月31日

福島県知的障害施設協会
人権・倫理委員会

品川 寿仁	あさかあすなろ荘	管理者	(県中地区)
馬上 政彦	みなみテラス	管理者	(いわき地区)
鈴木 繁生	のほら	管理者	(いわき地区)
蛭原 友之	サンハイツ葎ヶ入Ⅱ	サービス管理責任者	(県北地区)
篠原 愛	いわき学園	支援課長	(いわき地区)
三島木尚也	アルバ	管理者	(県中地区)
高杉 恭平	あさかあすなろ荘	生活支援員	(県中地区)

発行所：福島県知的障害施設協会 人権・倫理委員会 事務局
〒963-0103 福島県郡山市安積町大森町70-1 (あさかあすなろ荘内)
TEL 024-947-7575 FAX 024-947-7576